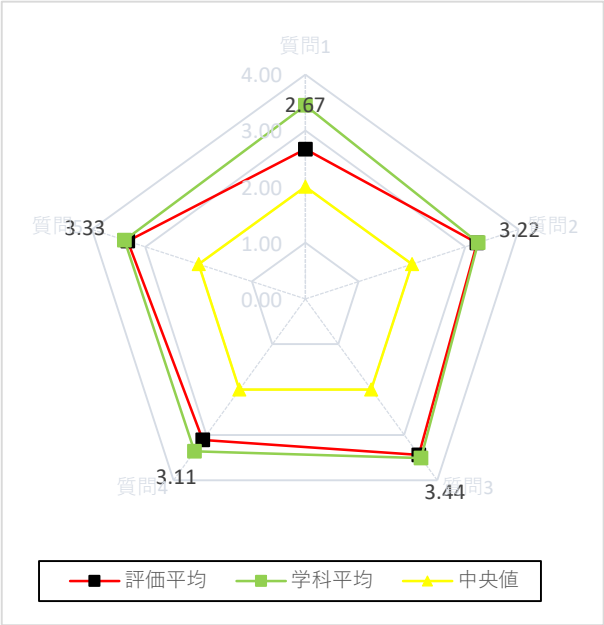
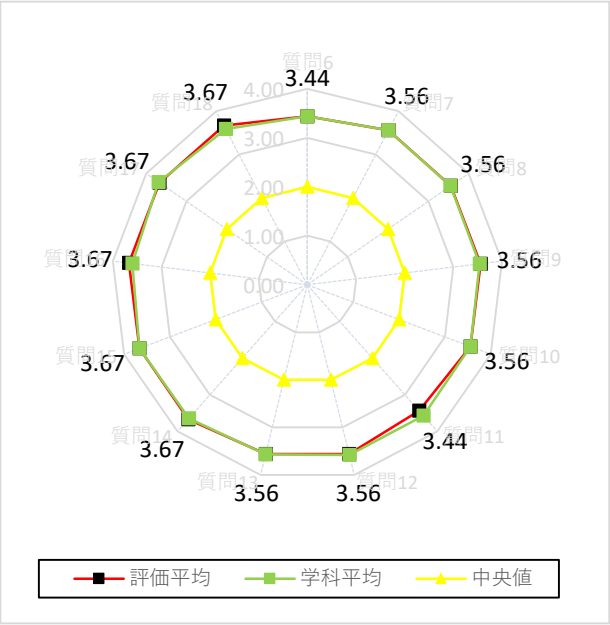
学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう（初年次教育含）	9名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

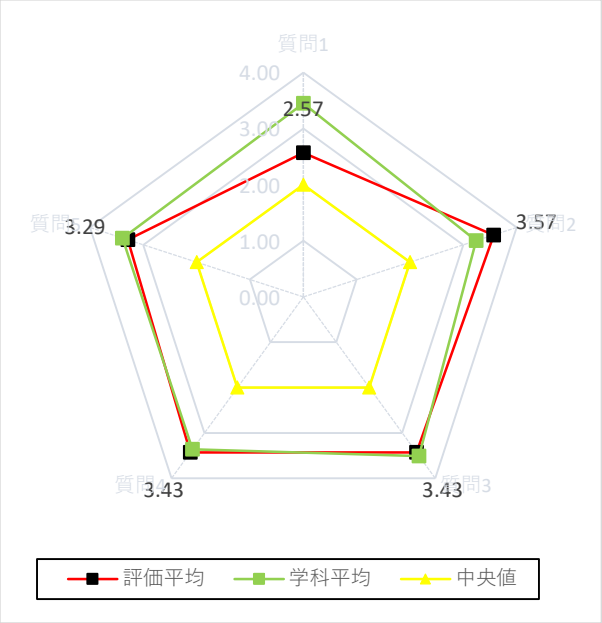
本科目は共通教育科目/キャリア形成(必修科目)として、1年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生9名が履修した。
履修学生9名のうち9名全員から回答があり、一部の質問項目を除き概ね学科平均と同程度の評価を得た。一方、学生の意欲･態度に関する項目の質問1「出欠」は学科平均を大きく下回ったことから、学生の出席率を向上させる努力が必要であると考える。

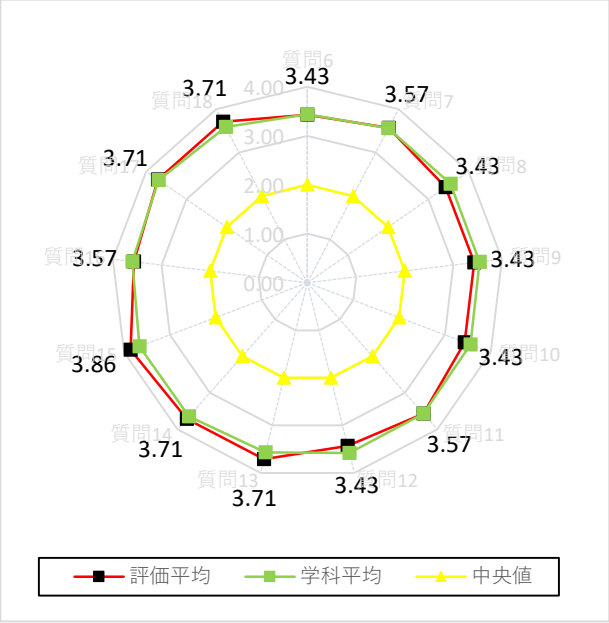
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は本科目の学科担当者として授業内容の充実を図るとともに、出席率の向上につながる指導を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう（初年次教育含）	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

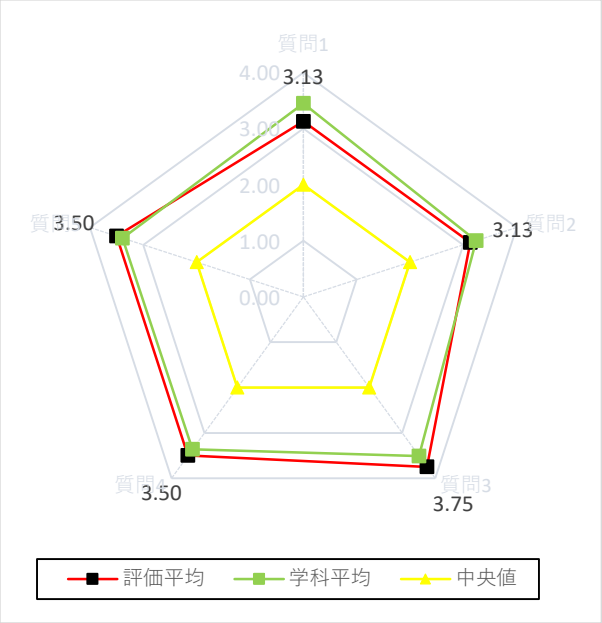
8名の履修者の内7名からの回答があった。まず、総合評価（質問18）で3.71と良好な評価を得たものと判断する。その中で評価平均が低かった（2.57）質問1につては学生自身の授業参加態度を反映するものであるが、授業担当者としても出席を促す案内や指導がさらに必要であったのかもしれない。今年度後期の授業は特に、「データサイエンス演習」の授業日を混在させて開講したことも、履修者の出席に影響したものと考える。それ以外の質問評価については、ほぼ3.5以上の評価であった。

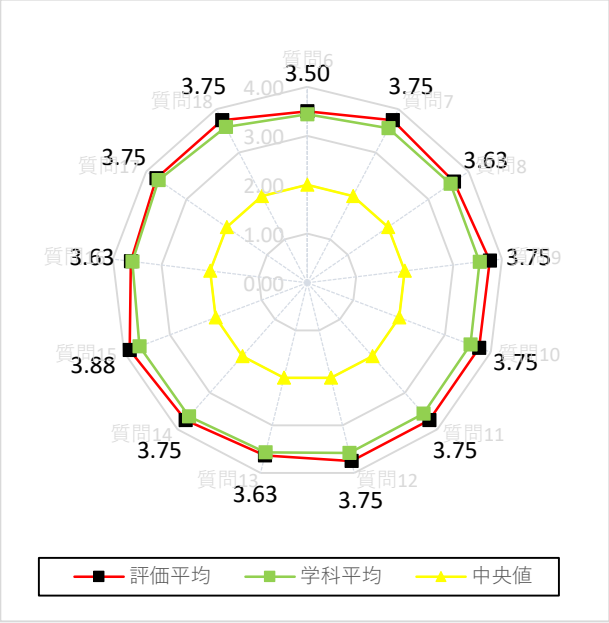
（３）次年度に向けての取り組み

次年度の授業計画では、学科として「データサイエンス演習」との授業日を混在させないよう計画調整ができそうなので、授業としても取り組みやすく改善されると思う。具体的内容は、大学全体と学部、学科で調整し、有意義な授業内容となるよう計画を進めている。ゼミ活動としては、学生の意見や声を聴き、双方向での展開で進められるよう、これまで以上に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう（初年次教育含）	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

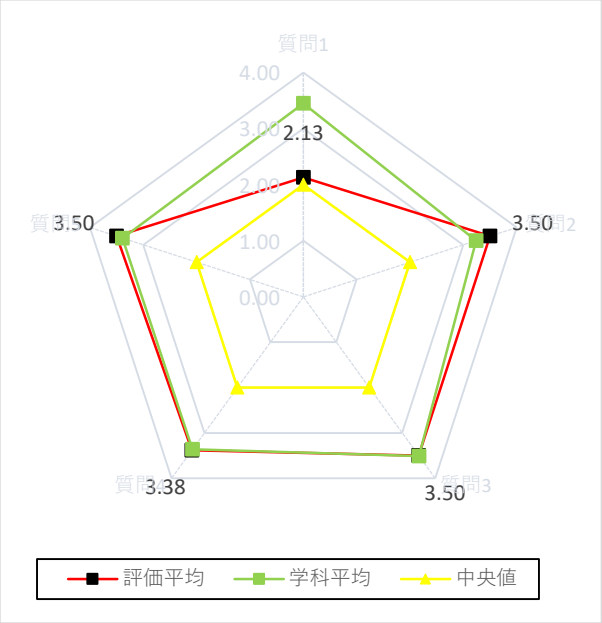
「あすなろう（初年次教育含）」は共通教育科目の必修科目である。多様な授業を展開するために不規則な実施日や実施場所での実施となった。質問1における出席状況への学生自身の評価が3.13と比較的低評価となった背景であると思われる。スケジュール等の情報は事前に通知してはいたものの、その都度確認の情報を提供するなどの教員からの積極的な案内や指導が必要であったと思われる。その他の質問項目については平均値を上回っており、おおむね良好な評価を得られたと考える。

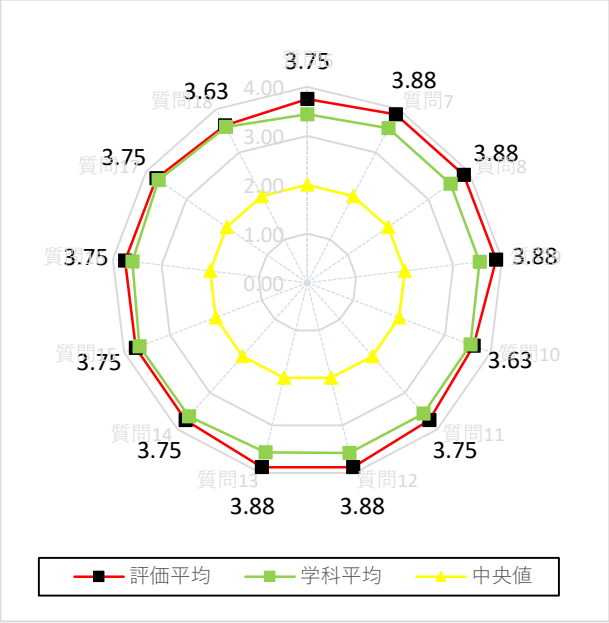
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価結果はおおむね良好であったが、上述したように教員からの積極的な指導や案内によって授業評価が改善できるものと考える。また、当該授業は大学全体や学科による授業コンテンツが含まれているが、ゼミ担当教員が少人数の学生に対して指導する機会を持つことができる授業でもある。この授業評価アンケートで問われる項目に必ずしも反映されないものになるかもしれないが、1年生のこのタイミングで学生個々とのやり取りを心がけていきたい。結果、高等教育機関である大学での学びがスムーズに導入されれば、これに続く教科の履修や卒業までの学生生活がよりよいものになるであろう。このようにして初年次教育としての機能も果たしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう（初年次教育含）	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

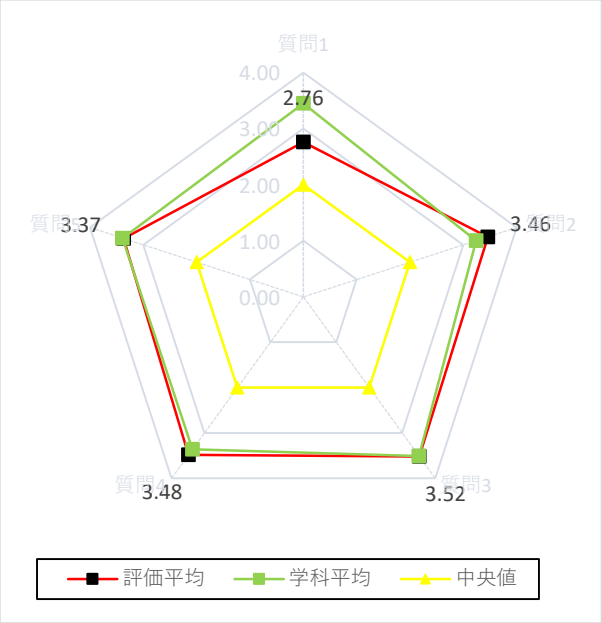
あすなろうについては、学科全体講義、ゼミ別活動、及び体験活動・発表会からなっているが、ほぼ他の講義同様の回答となっていた。質問1の欠席回数については平均値、他の質問については学科平均をほとんど上回っていた。今年度後期より担当したため、前期の様子はわからないが、ほぼ全員が体験活動による学びを発表することができていた。概ね学習者に対する成績も高く評価することができ、後期については高く評価できる。残念ながら1名がポイント不足のため、次年度体験活動を継続して実施することとなった。

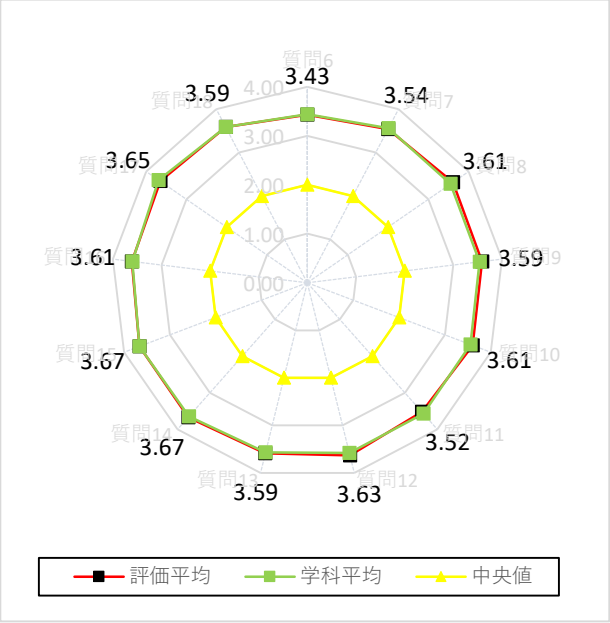
（３）次年度に向けての取り組み

体験活動の実施状況について、全員について十分把握することができていなかったため、ポイント修得状況を把握しながら活動が十分にできていない学生に対して個別の支援をするように取り組む。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		データサイエンス演習	49名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

この「データサイエンス演習」は、共通教育の必修科目である。学科の教員が分担して授業を展開したが、一部の授業では各教員の研究日や担当授業の時間割上で2グループで実施せざるを得ない状況となり、さらに「あすなろう（初年次教育含む）」授業時間帯に全体授業を組み込むなどして、かなり煩雑な調整で実施することになった。このことにより、履修者に混乱と不安を与える結果となってしまったことは反省しなければならない。

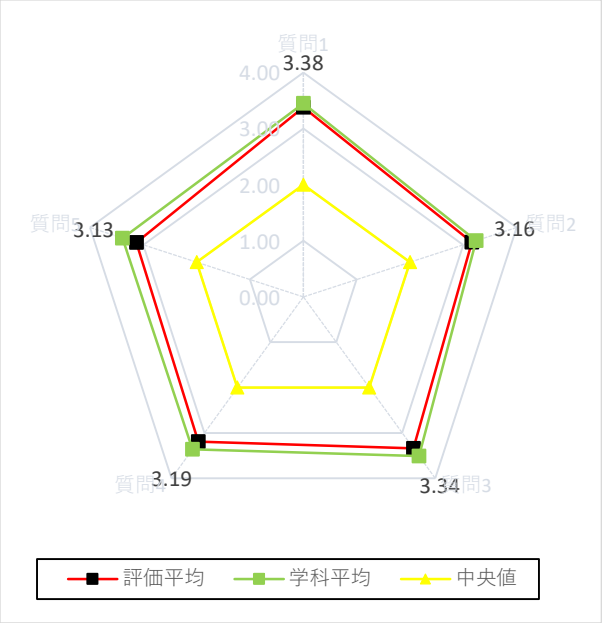
具体的な評価の分析として、まず質問18の総合評価では、3.59と良好な評価を得たものと判断する。一方、評価の低かった質問1の出席状況に関する学生自身の授業に対する態度（2.76）であるが、各教員から次回の授業や準備について積極的に案内や指導が必要であったかもしれないし、上記内容が多少なりとも影響を与えた可能性がものと考える。それ以外の質問に対しての回答の評価については概ね3.5以上のある程度の評価を得ているものの、今後より一層の高い評価が得られるよう取り組み改善の努力をしたいと考える。

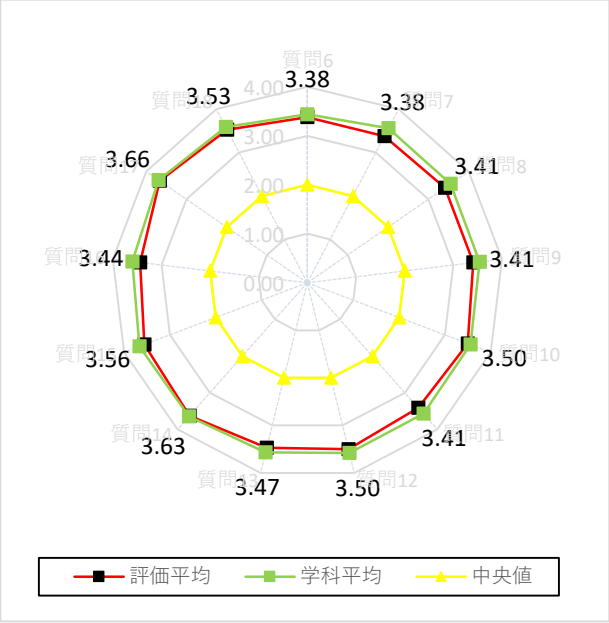
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は「あすなろう（初年次教育含）」授業と混在しないように時間割調整しているので、授業展開上も良好な状況に改善できるものと期待している。そのため今後、各教員の担当内容を調整する必要もある。この「データサイエンス演習」は昨年度より始まった新しい授業科目であるため、今後も改善する内容も多い。学科教員が、高等教育機関である大学での学びで重要となるデータサイエンスに学生と一緒に成長しながら、将来に活かせる授業内容や取り組み等を今後も検討、改善していきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康福祉概論	92名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

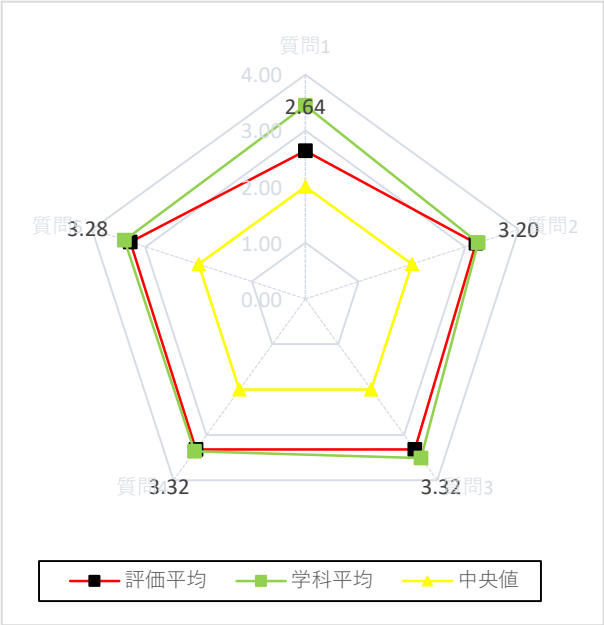
本授業はオムニバスで４回担当した。
学生の自己評価では、質問４，５についてやや評価が低く見受けられ、自己学習につなげる必要性と総合評価が高くなるように主体的に取り組める授業を検討する必要がある。授業評価については、質問７，１１，１６についてやや評価が低くなっていた。担当コマにおける到達目標は初回に示して実施した。教科書配布資料は使用せず、Teamasファイルに予習、復習ができるように資料をアップしていたが、その活用状況はわからなかった。多人数ではあるが、Teamsの課題（クイズ）を各講義の最初に実施し、その回答を確認しながら双方向で講義した。

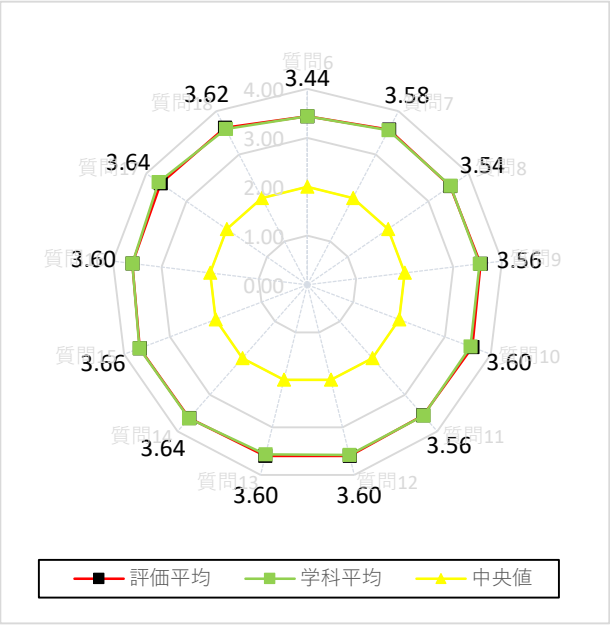
（３）次年度に向けての取り組み

学生の主体的な学びを進めるために、予習・復習面において課題の設定を調べ学習につなげるように設定していきたい。４コマの担当については、今年度が初めてだったので、次年度は資料提示方法を講義最初の課題（クイズ）とまとめの振り返りにすべてつながるように工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ支援論	51名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

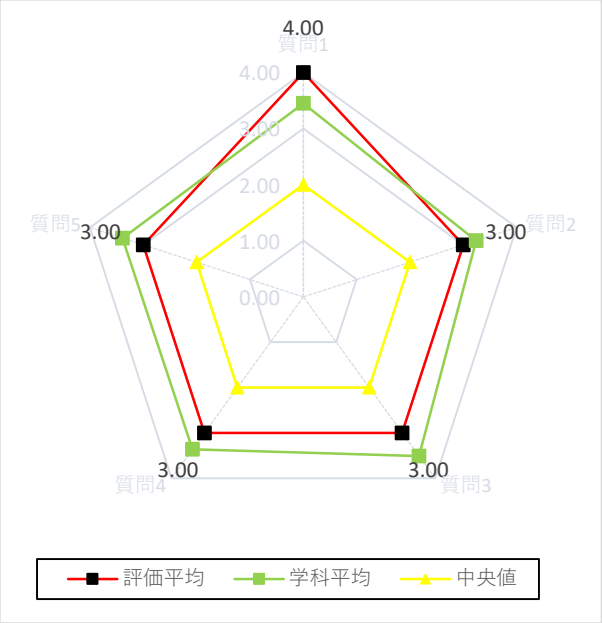
この講義は、前半8コマを担当した。学生の自己評価は質問1の評価が低かった。欠席理由についてはこれまでフィードバックすることがなかったので、その原因はわからなかった。授業評価については、すべての質問において学科平均を上回っており、特に課題となる点は見受けられなかった。

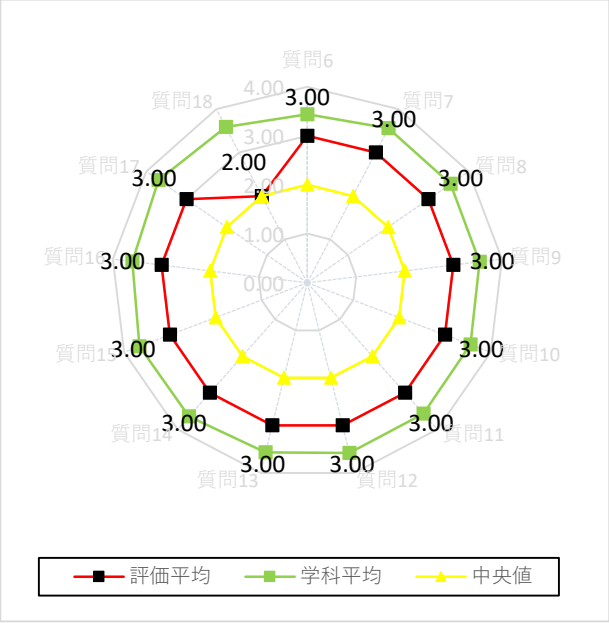
（３）次年度に向けての取り組み

これまで、授業全体を通しての学びの目標を提示してきたが、講義への参加を促すために、各自の授業に対する課題と目標を明確にして、講義を通して課題解決と目標達成度が感じられるような、毎授業の導入を考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅰ	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

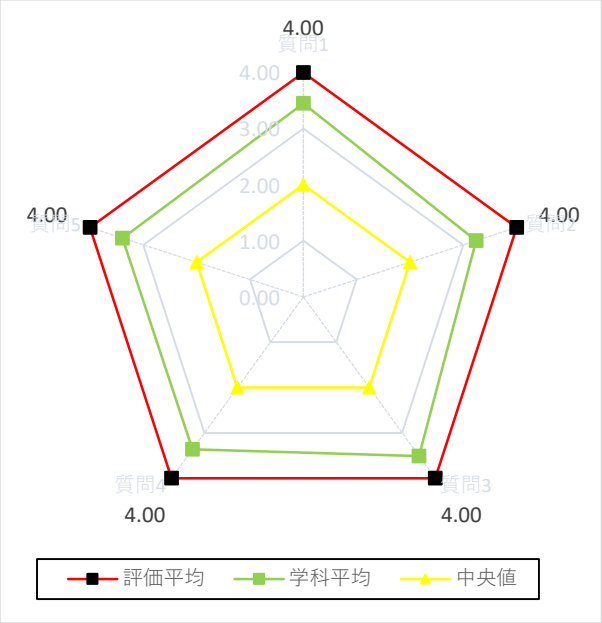
履修者8名の内1名の回答であるため全体的な結果分析は控えるが、総合評価の質問18で評価が2となっていることが気になるところである。自由記述にも記載がないため詳細は不明であるが、本人に直接聞き、改善が必要であるならば対応したいと考える。内容的には演習授業のため双方のやり取りが重要となるが、なかなか学生の意見等が得られず、一方的な指導になっている場面もあって反省する。

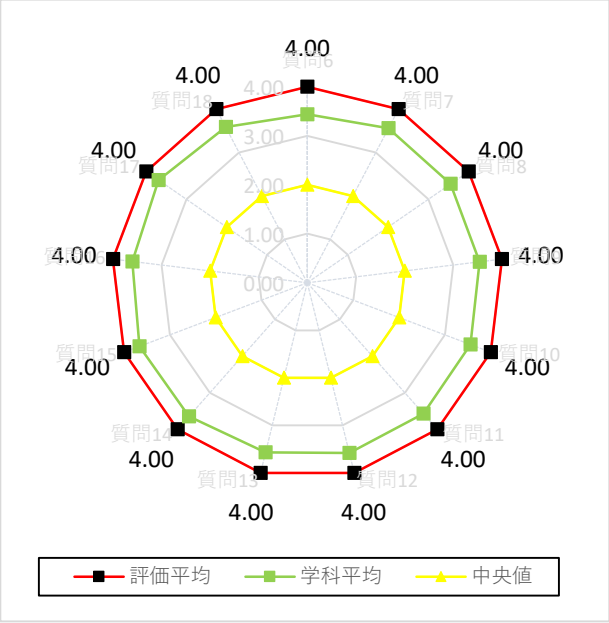
（３）次年度に向けての取り組み

時間割上、「地域スポーツ実践演習」の取り組みが重なった日もあったため、年間スケジュールを作成、配布して、授業の目標に達成できるよう計画的に対応してきたつもりである。しかし、4年生の「スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）」へ繋げる授業への取り組みに緊張感や真剣さがない状況が学生の中で見られこともあって、次年度はそのような学生への態度にも対応、改善できるよう取り組みたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）	9名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

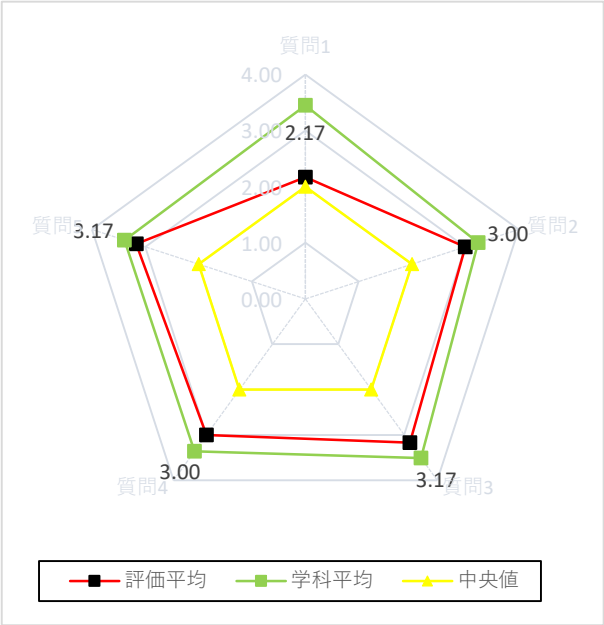
授業評価対象外の科目としていたため、１名が回答した内容のため、全体の分析・評価はできない。

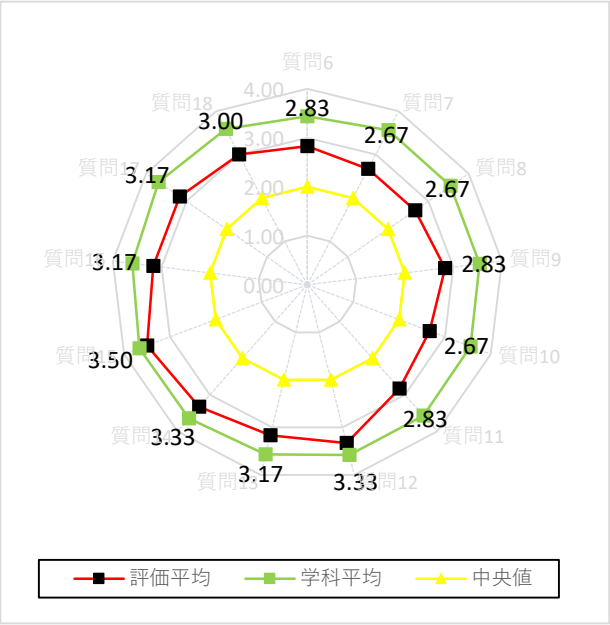
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、対象となる内容記載はない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

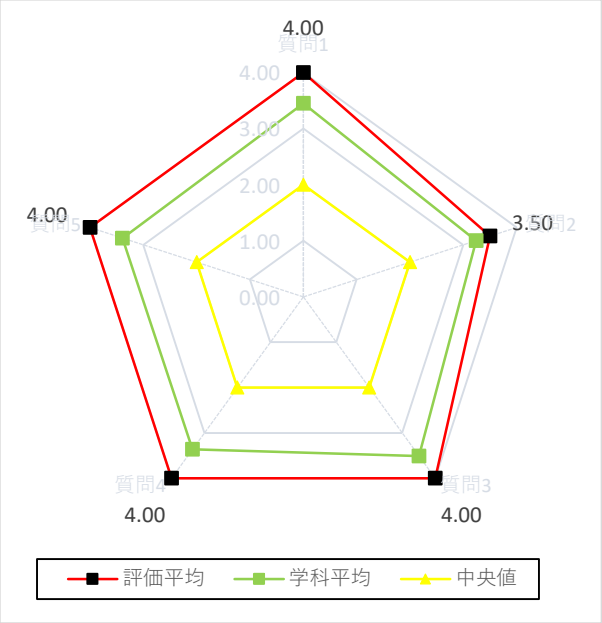
本科目は専門教育科目/学科専門科目/ゼミナール(必修科目)として、4年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生8名が履修した。
履修学生8名のうち6名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を下回る評価となった。特に、学生の意欲･態度に関する質問項目1「出欠」については、集団指導よりも個別指導の場が多いため、教員の責任で出欠を管理していたものの、自身の出欠状況が学生にとって分かりづらかった可能性がある。一方、学生の意欲･態度に関する質問項目5「自身の総合自己評価」および教員に関する質問項目15「公平な対応」については、学科平均と同様の評価となり一定の評価を得たものと考えられる。

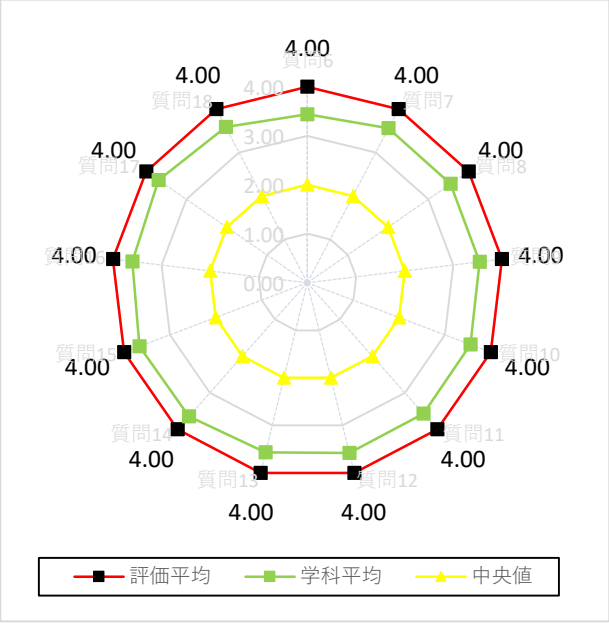
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の授業評価で得られた結果を受けて、学生に分かりやすい出欠管理へと改善したい。また個別指導に加えて、集団指導の場も意識して設けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

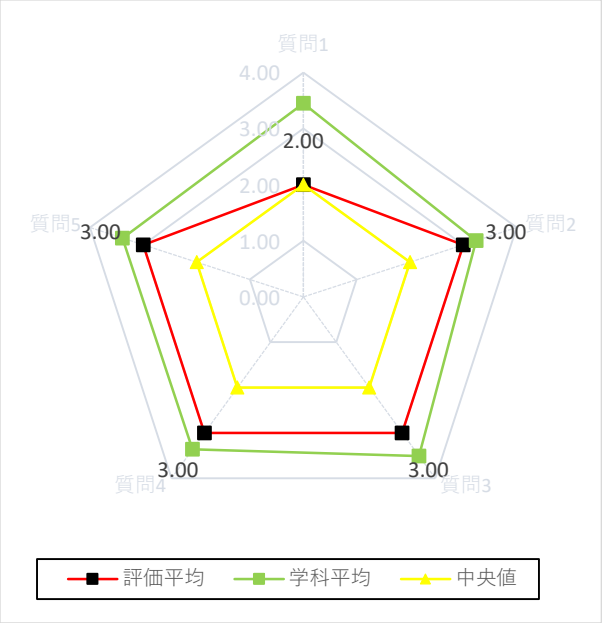
この科目は必修の専門教育で、これまで修得してきた教育内容の集大成となる卒業研究に取り組み、卒業論文を提出することが課せられている。今回ゼミ生8名の内2名からの回答結果である。しかも、この2名は真面目で卒論作成にも積極的に取り組んだ学生のために、授業評価も高く回答していると察する。質問2以外は全て4であり、この結果からは十分に良好な授業評価を得られた。しかし彼ら以外の学生の評価はどうであったかは少し気になる。しかし授業の展開上個別指導とともに授業時間割以外での対応をしてきたことで学生の意見も聞き取れ、私としては満足している。ただ、更なる授業改善の努力は惜しまず、よりより授業が展開できるよう努力したい。

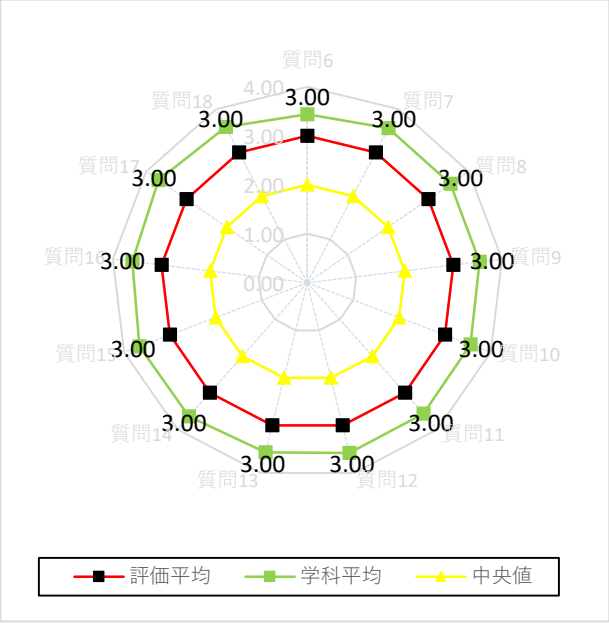
（３）次年度に向けての取り組み

現3年生の「スポーツ健康福祉学演習Ⅰ」の取り組みの状況から具体的卒論のテーマの設定には至っていないが、次年度も計画的に進められるよう準備したい。そしてある程度早期の卒論作成ができるよう指導したい。これまでの指導経験を活かして、学生が満足できる授業に近づけられるよう取り組みたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅡ	10名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

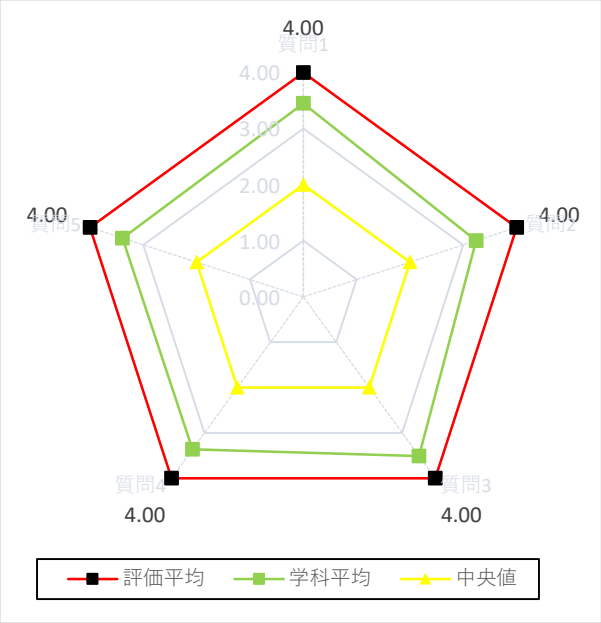
ゼミ生１０名中１名の回答。授業内での呼びかけを行ったが、授業中に行っていなかったことを反省点として挙げる。１名の方については、出席に対しての自己評価と、質問６から１８まで学科平均値より低い数値を出していることについて、質問１の自己の出席率を相互に診て、予測ではあるが、授業に対して、出席したい内容ではなかったと反省を行う。

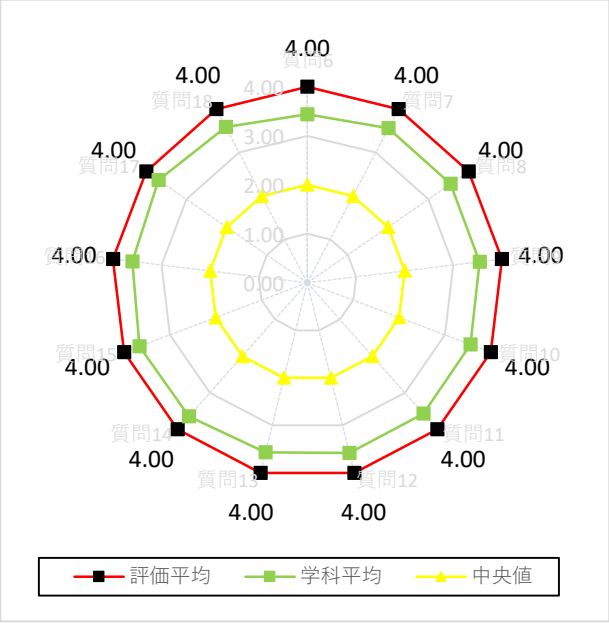
（３）次年度に向けての取り組み

ゼミⅡについては、３・４年生の続きの授業であるため、令和５年度授業の最初に、学生の意向等を把握し、何が必要なのかを改めて考え、授業の進行に入れたい。また、全員からの授業評価を授業内で行う。５・６月までの卒業論文作成のみではなく、全体のモチベーションを挙げる授業を勧めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅢ（含卒業研究）	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

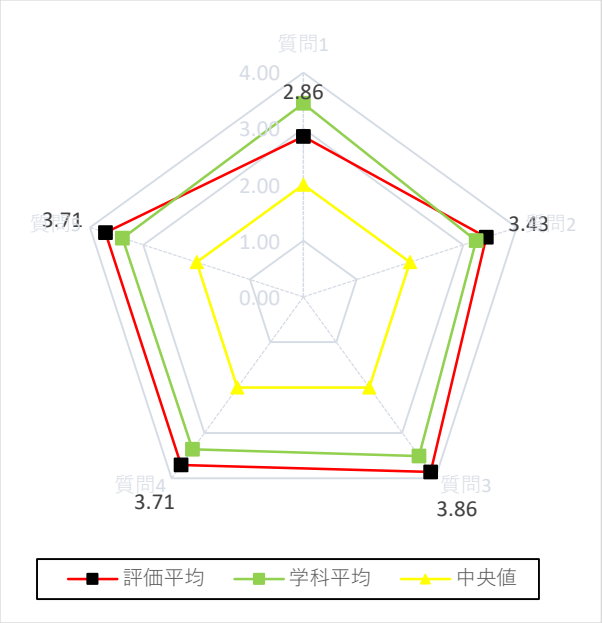
卒業研究に該当する4年生受講の科目である。回答者が1名であり、回答者数に課題がある。
今年度の改善点は、就活サポート時期を早めたこと（3年次2月）である。その成果として、就職先決定の早期化、国家試験合格率の高さの一因につながった可能性がある。
引き続き、卒業研究の指導にとどまらず、卒業後の進路選択、実習等に向けたモチベーション向上につながる様創意工夫を試みたい。

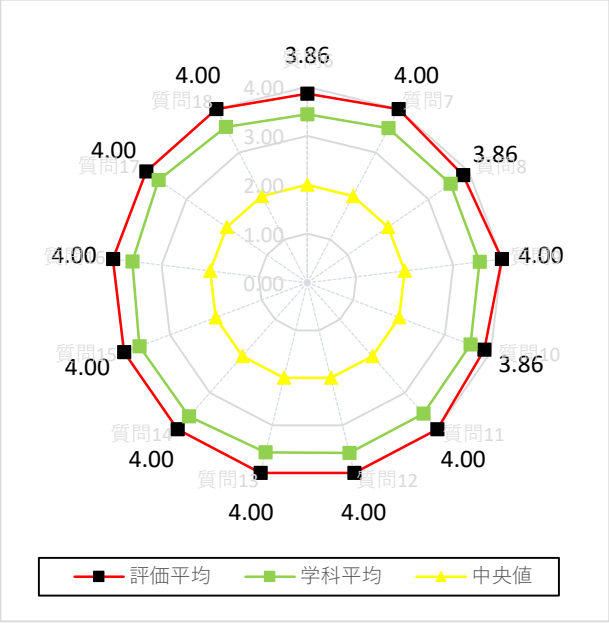
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は3年次ゼミ（発展ゼミⅡ）を担当することになる。早期の進路研究、就活も含め、大学生活の総まとめができるゼミ運営を心掛けていきたい。なお、授業評価の回答者数改善に向けて、個別の働きかけをしていく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅠ	12名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

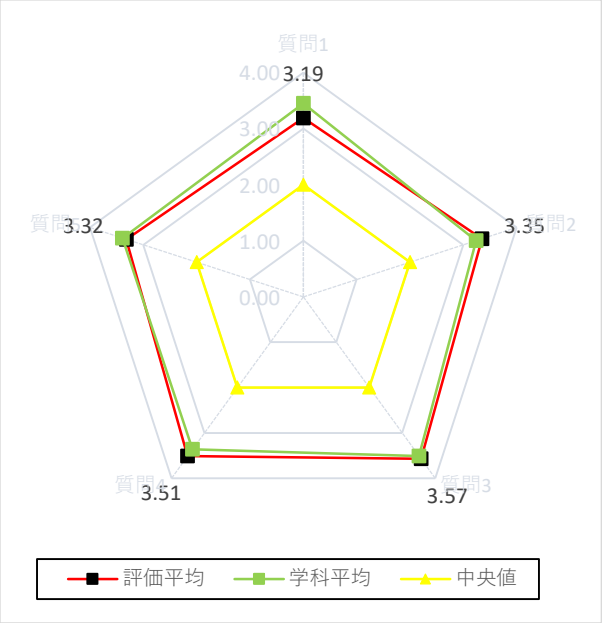
ゼミ生7名の回答があり。質問１については、欠席が見られた学生に対して今後呼びかけ等を行っていきたい。質問６．８．１０に関しては、１名の回答が十分な満足とは言えず、令和５年度更に注意しながら進めていきたい。ゼミ活動を学生を中心に、課外での活動・グループワーク・自主的な活動を行ったことが良かったと考える。

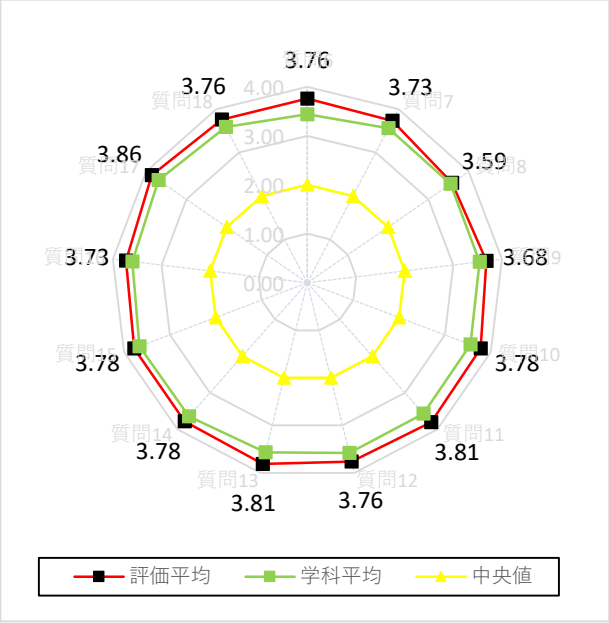
（３）次年度に向けての取り組み

ゼミ活動に参加してくれた学生については、１名以外はほぼ充実感を感じていたようなので、今後も学生の自主性を考えながら十分に対応していきたい。ただ、２名の６回以上の欠席者への指導が十分行き届いておらず、今後の課題としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		介護論	61名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

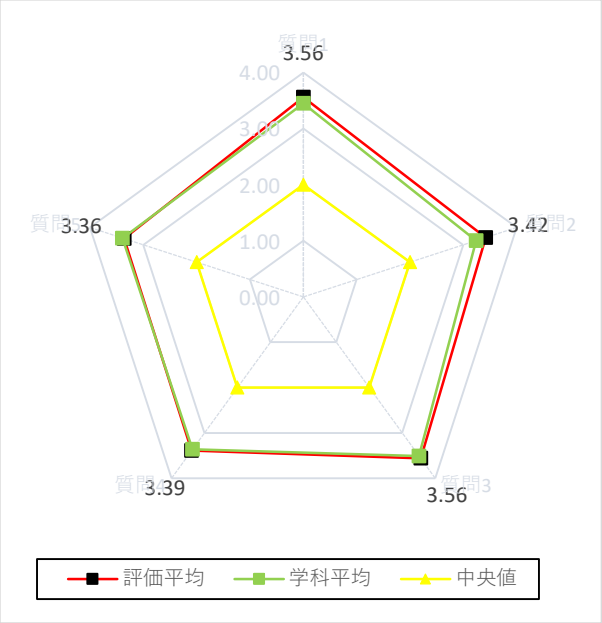
受講者３７名からの回答。質問１から５に関しての自己評価についてはほぼ学科平均値。学生自身のモチベーションを上げる工夫を行う必要が更にあると捉える。
質問６から１８については、７・８・１０・１２・１３・１６に１～２名の方が普通を選択されていて、全員に対して、配慮が必要だと捉えている。
自由記述において、「介護保険について学ぶことが出来た」という意見と「生徒1人1人にちゃんと対応していたからよかった。話し方や説明の仕方がすごく伝わりやすく説明されていたのでよかったと思う。」の２つの記述があった。授業内容の到達目的が達成されたとの意見をもらえて、成果があったと捉えている。また、今後も一人一人に併せた授業方法（進行の確認・画像や映像の使用・学生自身からの意見をもらう双方向の授業方法等）を進めていきたい。

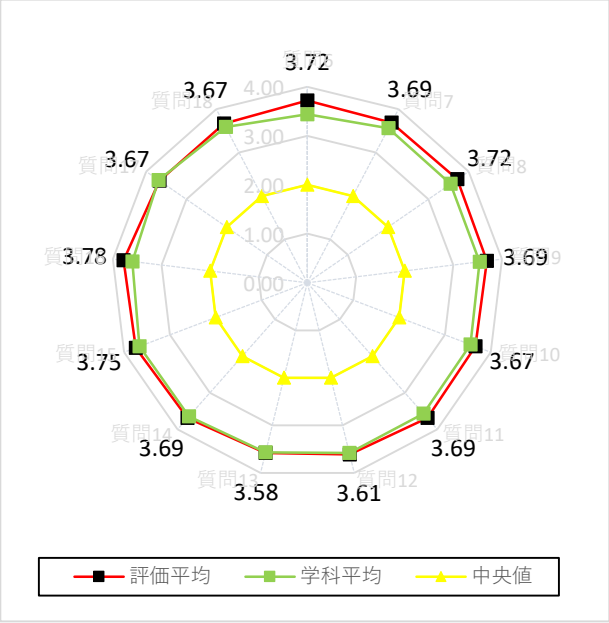
（３）次年度に向けての取り組み

１・２名の方が、十分満足されていないことが理解できた。さらに授業方法（進行速度・速さ等）については学生の反応を見ながら工夫を重ねていきたい。双方向の授業についても、一人一人すべての学生を見ながら、興味を持てる内容を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅲ	58名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

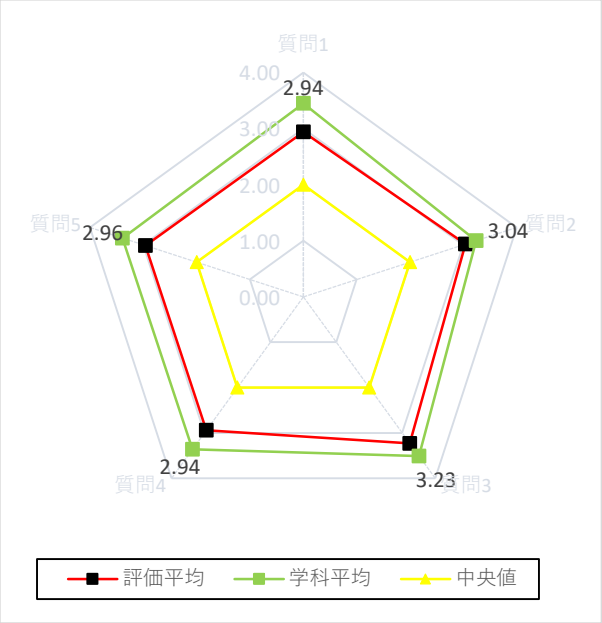
３６名の回答。授業について、全員に対して課題を出し、グループで課題調べ・発表を実施。　そのため、出席について良い結果となった。半面学生を中心に行ったので、質問１７について、１名が熱心ではないと捉えられたかもしれない。教員のサポートが十分に行われることを伝えいき、更に自分たちで学ぶことを勧められる教育内容にしたい。質問１３については、教科書の量・学生を中心とした内容とすると、急ぎ足で行わざる得ない点もあった。これについては、TEANS等の資料の掲載等を行い、授業後に再度復習できる体制を整ていたいが、その説明や進度について状況を見ながら行う必要がったと反省する。全体的に学科平均とはなっているが、今後の課題としていきたい。

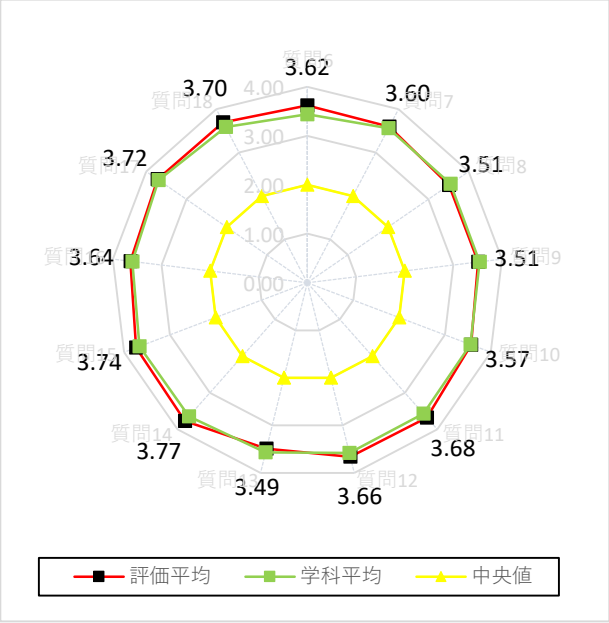
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価をもう少ししていただき、全体の意見を行けるように、声掛けを行っていきたい。
感想において、「調べ学習をし、発表を行い、その補足をして　という点では学習ができた」との評価を１名から記載していただいた。　自分自身で学ぶことを勧められるように、今後も工夫していきたい。進度・声の大きさ等については、一人一人の反応や状況を見ながら、更に深化させていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅳ	55名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

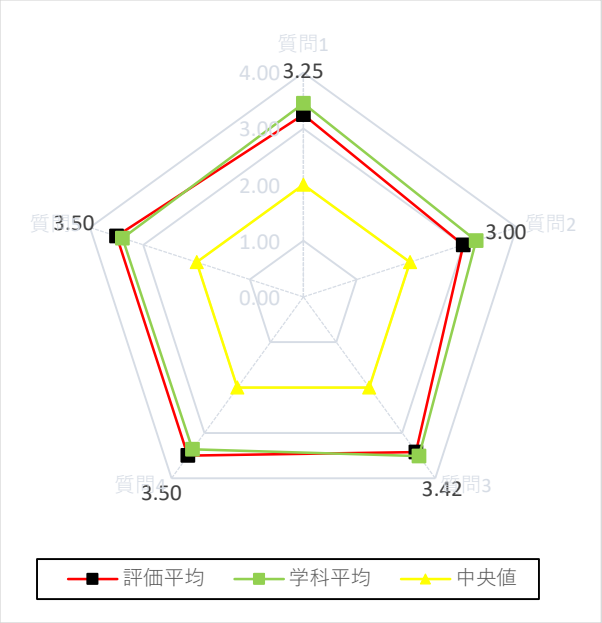
４７名の回答。質問１から５については、１５名程度の学生さんが自己評価が低い状況となった。授業について欠席をしなくていい真剣に取り組めるような工夫を教員側ももう少し行うべきだと感じた。４７名中質問６から１８については、７・８・９について約４名の方が十分でないと評価され、他の項目については、１名の方が十分でないと評価された。毎回、授業の最初にシラバス・進行状況を示していたが、今後気を付けていきたい。興味については、映像や模擬事例等をさらに入れながら行っていきたい。授業の進行については、少し急いだとことろが見られたのかもしれない。すべての人に対応が出来ていないこともあり、今後の反省として、一人一人の反応を見ながら進めていきたい。

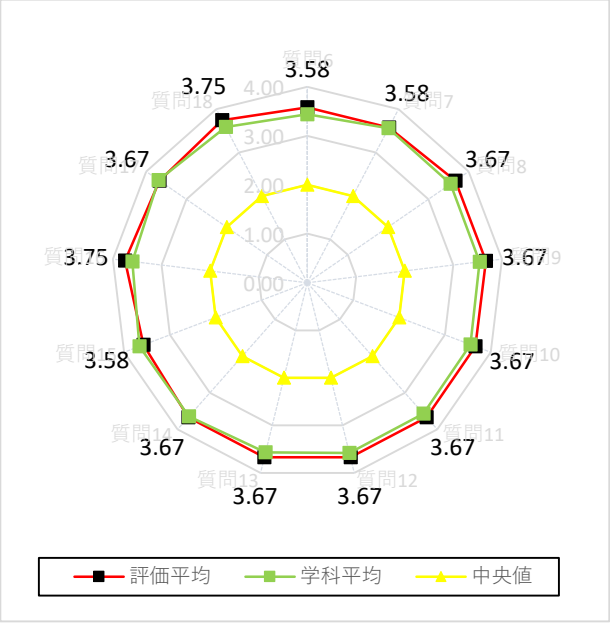
（３）次年度に向けての取り組み

わかりやすい授業内容を心掛けていきたいが、一人一人に対応できていない部分もあり、今後さらに気を付けていきたい。　特に１３については、教科書の内容量から考えて少し急ぐ時もあり、双方向の授業を重ねていき、必要があれば、予習・復習の部分で学生さんにも協力を仰ぎながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		生涯スポーツ論	53名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

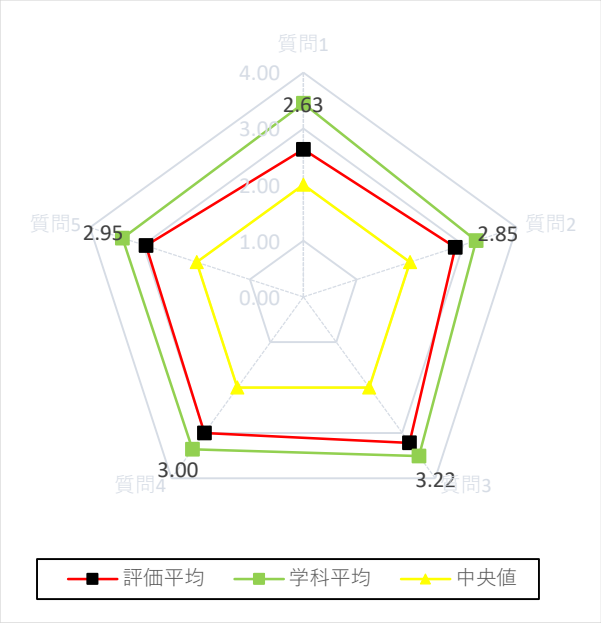
1年生対象の科目が地域スポーツ支援論があり、この講義は授業評価対象外の科目としていたため、１２名が回答した内容のため、全体の分析・評価はできない。
全体の1/4ではあるが、自己評価、授業評価ほぼすべての項目で平均を上回っていた。自己評価においてシラバスの活用がやや低かったが、初回の講義で説明しただけだったので、活用するまでには至っていなかった。

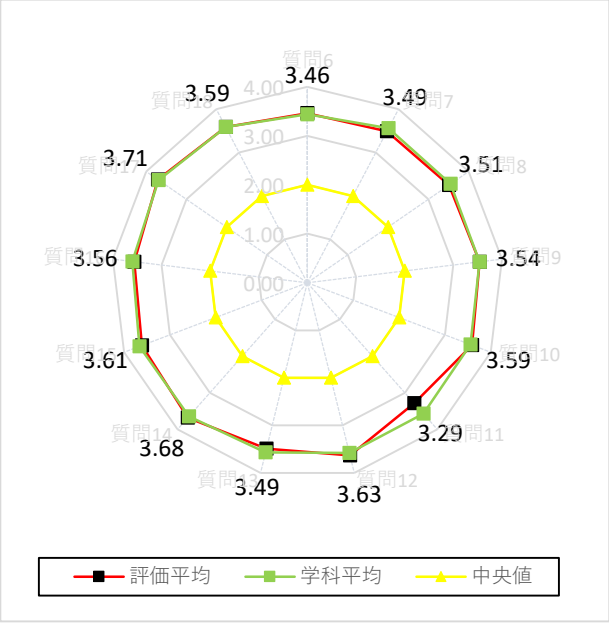
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、評価の対象となる内容記載はない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動学（運動方法学を含む）	50名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

この「運動学（運動方法学を含む）」は専門教育科目の選択科目である。高等学校および中学校教諭一種免許状（保健体育）の要件科目でもある。当該授業を初めて担当したが、授業評価の結果は総じて良好とは言い難い。特に質問1～5はいずれも学科平均を下回る2.6～3.2の評価となっており、学生の主体的な授業参加や学びの姿勢を引き出すことができなかった点を大いに反省したい。質問11でも3.29と学科平均より低い。これは当該授業では教科書を指定していないことが一因としてあると考える。質問13は3.49と低評価ではないものの、学科平均相当であった。授業難度とも関係していると考えるが、授業後半期に出席率や課題提出率が低下していることから、進行速度との関係も考慮したい。これだけネガティブな評価結果があるなかで、質問18の総合評価では3.59と比較的良好な評価が得られている。これを糧に次年度ではよりよい授業を目指したい。

（３）次年度に向けての取り組み

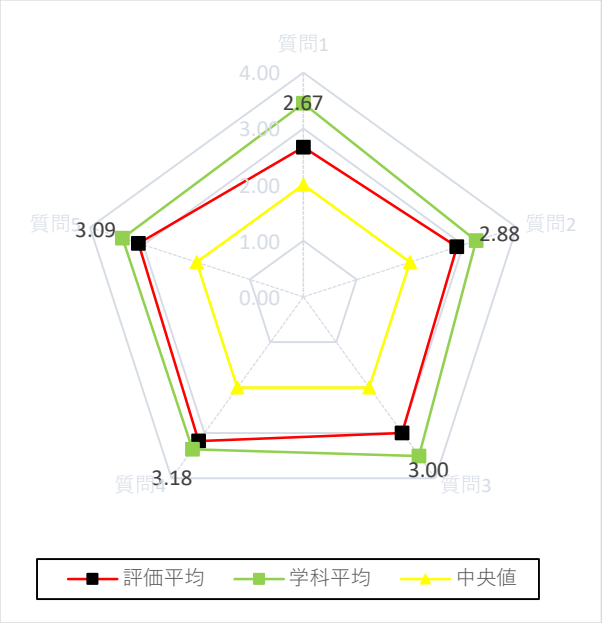
具体的には、まず質問11に関連して、授業内で使用する資料やその活用の手順を見直す。資料をオンラインで入手できるようにし、その資料が毎回の授業課題とリンクしていることをより強くアピールすることで、受講者の興味関心を引き出していきたい。

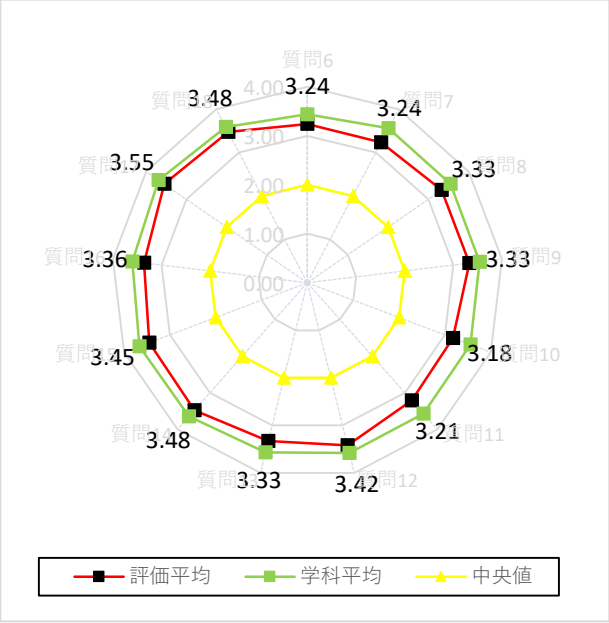
また質問13について、進行スピードが適切であるかを毎回の授業内課題で確認しながら、場合によっては再課題を設定するなどの対応をとる。受講生の理解度を都度確認することで、提供する情報量および質を調整していく"あそび"が持つことができる授業構成を考えていきたい。

これらに取り組むことで、学生が授業に取り組む姿勢を改善することが期待できる。結果、質問1～5の評価がよりよくなることを目指したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		バイオメカニクス	40名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

この「バイオメカニクス」は専門教育科目の選択科目である。中学校および高等学校教諭一種免許状（保健体育）、健康運動指導士および健康運動実践指導者受験資格の要件科目でもある。

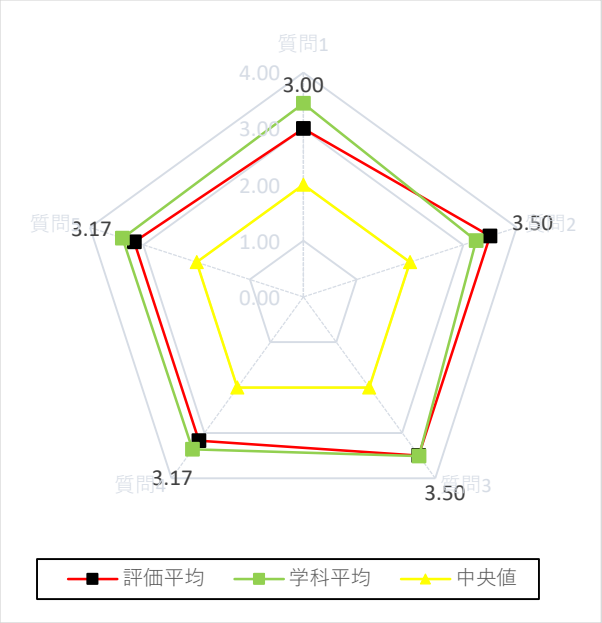
当該授業を初めて担当したが、授業評価の結果は総じて良好とは言い難い。特に質問1～5はいずれも学科平均を下回る2.67～3.18の評価となっており、学生の主体的な授業参加や学びの姿勢を引き出すことができなかった点を大いに反省したい。質問6～18の授業内容についても同様に学科平均を下回る評価となっている。特に質問10の評価3.18と質問11の3.21は教材の準備が十分でなかったことを表しており、それが受講生の授業理解や取り組む姿勢に影響したものと考えられる。

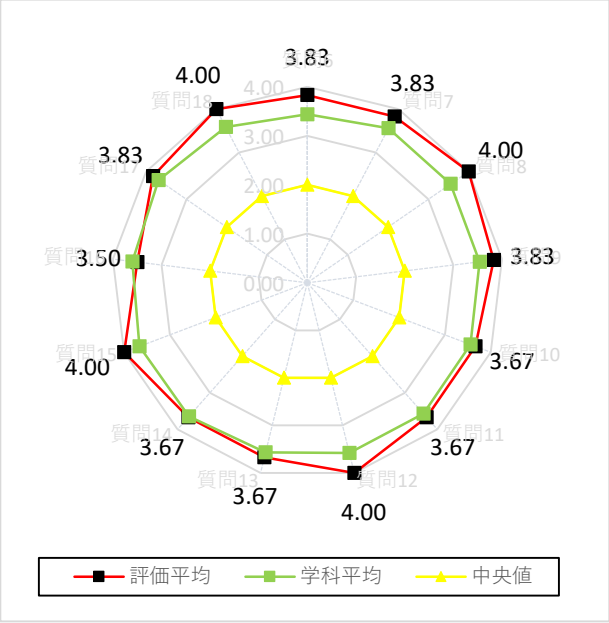
（３）次年度に向けての取り組み

質問10および11の結果から、授業教材については見直したい。当該授業ではヒトの身体運動を扱うことから、イラストや動画などのマルチメディア教材を多用している。この多用が悪いのではなく、受講生の学びに結びつかない活用の仕方であったことが低評価の原因であると考える。授業では毎回課題を実施していることから、この結果をモニタリングすることで、受講生の理解が不十分な箇所の資料を改善した上で再掲するなどの手間をかけたい。このような取り組みによって、学生が授業に取り組む姿勢を改善し、結果質問1～5の評価がよりよくなることを目指したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		学校保健	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

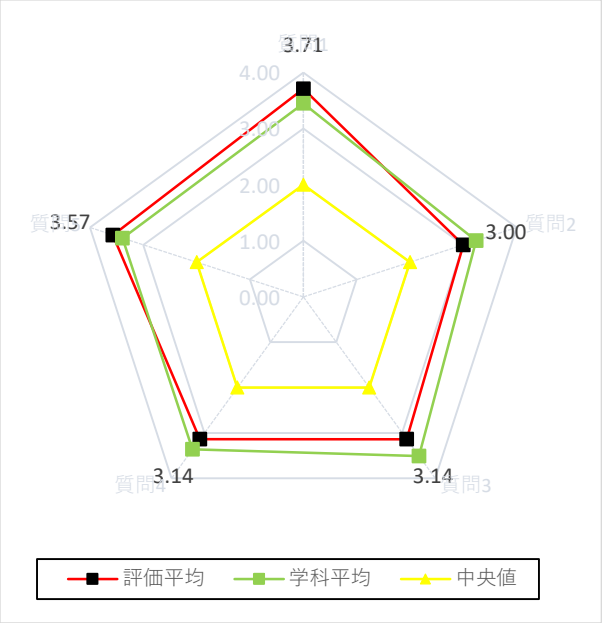
今年度後期の授業評価実施科目にしていたが、後期より退職した教員の科目も担当し授業科目が倍増し、授業評価自体を講義時に実施することを失念していたため41名中6名しか回答を得られなかった。回答した6名については自己評価も特に問題なく、授業評価はおおむね高い評価をしていた。しいて言えば、双方向での視点が平均点ではあったが工夫の余地があると感じた。
学生の負担軽減で授業評価対象科目を限定する場合、その科目が授業評価対象であることが確認できるように、評価対象科目一覧での周知やポータルサイト上で対象科目が確認できると、今回のような間違いは怒らなくなると思う。

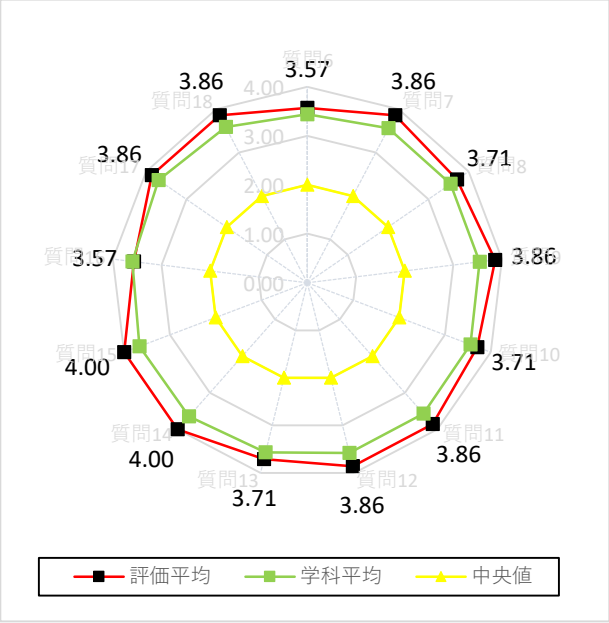
（３）次年度に向けての取り組み

次年度は、この科目について評価を実施しない予定であったが、授業改善のため次年度に実施することとした。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論Ⅰ	10名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

2年生の介護福祉士資格取得希望者が受講する科目である。学科平均と比較して低い項目が質問2、3、4、学科平均と同様の結果が質問6、16であった。質問2、3、4については、学生の参加度に該当する内容であり、残念ながら2022年度は学生のそのような態度を引き出すことができなかったということになる。特に質問16の双方向のやり取りも学科平均と同様の点数であり、資格取得希望者のみが受講する少人数の授業科目の強みを活かすことができなかったといえる。

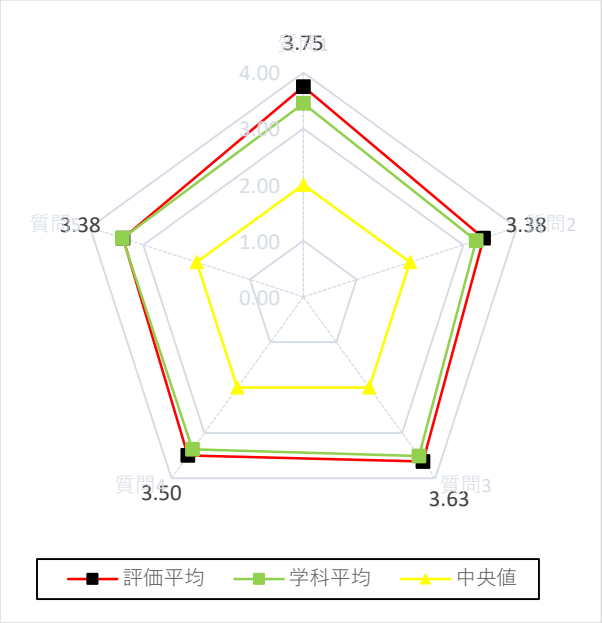
また、質問２、質問６の得点の低さから、シラバスの活用に課題があった。授業では、公開されているシラバスとは別に授業で配布し、説明しているが、十分に伝わっていない、活かせていないということが確認できた。次年度はその点を改善できる取り組みが必要である。

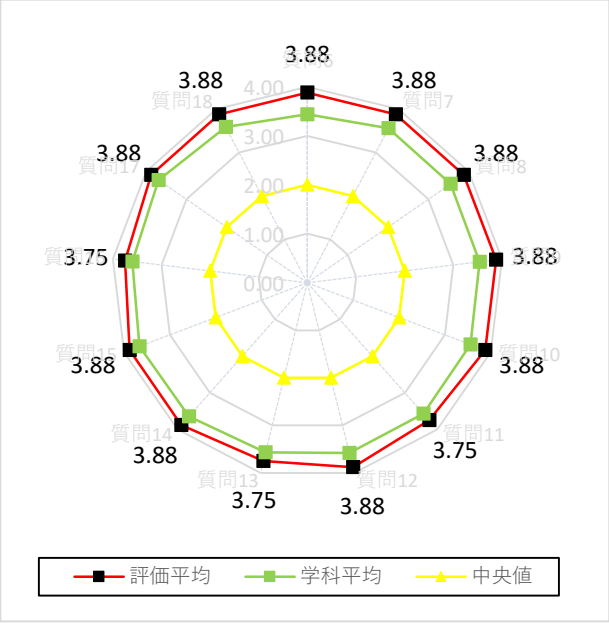
（３）次年度に向けての取り組み

学生の主体性、双方向のやり取りに焦点を絞って授業改善に取り組む。
①講義中心の内容の日は「学生に興味関心を引くキーワード、問の設定」を行い、歴史や法律に関する授業を展開し、居眠りや私語の減少に努める
②シラバスの記述をさらに詳細にし、授業の冒頭および最後に学生とともに確認、学習の意義や次回までの復習、関心を持っておくべきトピックスを紹介する
③レポートや発表を通して「双方向」でのやり取りを通した学びを実感する。
以上に取り組む

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅰ（高齢者）	10名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

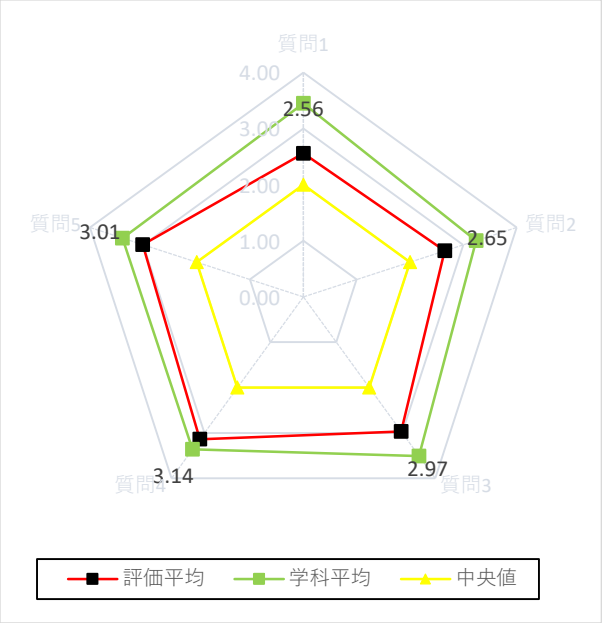
実技と演習で構成される授業であり、学生の主体的参加を促進しやすい科目である。多くの項目が学科平均より、若干高い結果はそのためであると考える。
今回工夫した点として、技術評価チェックリストを作成、配布し、授業内で自分の技術の習得状況を客観的に把握、課題を見出すことができるよう取り組んだ。また演習後には、まとめのレポートを課し、知識と技術の統合を図る工夫を試みた。しかし、評価結果からは、そのような工夫が授業の満足度を高めたとまでは言えない。この試みを継続して行いながら、評価表やレポートのフィードバックを工夫するなどを通して、学びの満足度を高めていきたい。

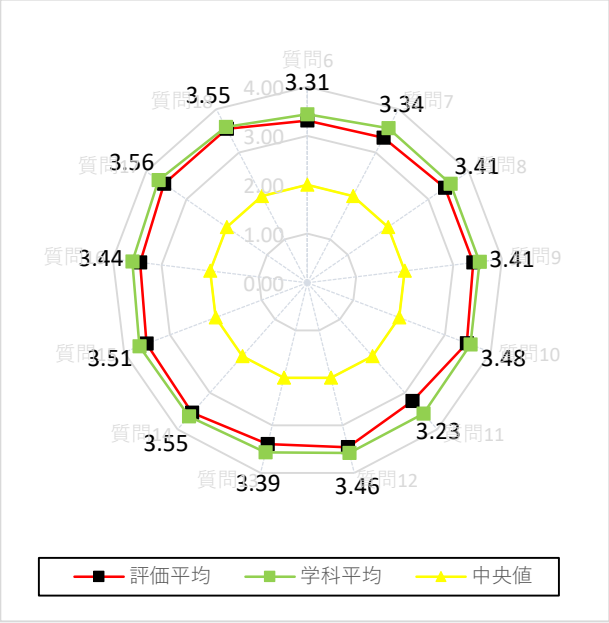
（３）次年度に向けての取り組み

技術評価チェックリストの活用および、演習後のまとめのレポート作成を継続する。しかし、単なる負担感に終わらないよう、チェックリストの活用のタイミング、まとめのレポート作成締め切りの設定などを工夫し、達成感につなげることができるよう工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		発育発達論 発育発達とスポーツ	82名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

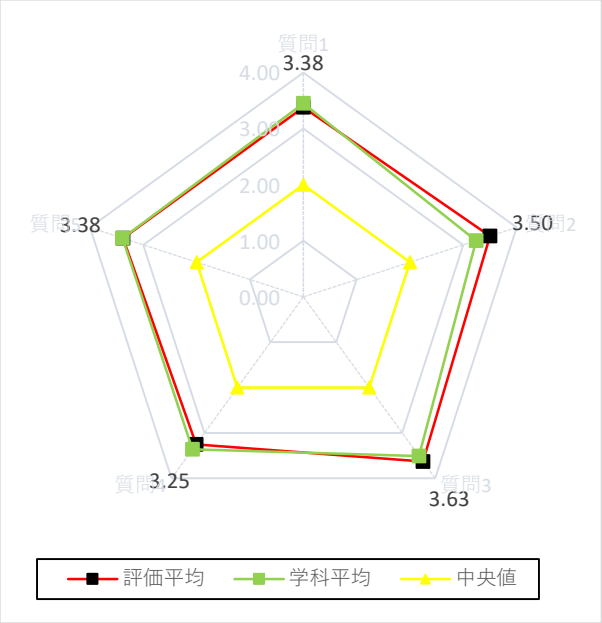
この「発育発達論」および「発育発達とスポーツ」は専門教育科目の選択科目である。公認スポーツ指導者、パラスポーツ指導者（中級）資格の要件科目でもある。カリキュラム以降に伴い異なる名称の科目となっているが、同内容を対象2学年に同時に授業した。当該授業を初めて担当したが、授業評価の結果は総じて良好とは言い難い。特に質問1～5はいずれも学科平均を下回る2.56～3.14の評価となっており、学生の主体的な授業参加や学びの姿勢を引き出すことができなかった点を大いに反省したい。質問6～18の授業内容についても同様に学科平均と同等かやや下回る評価となっている。特に質問11の評価3.23は教材の準備が十分でなかったことを表しており、それが受講生の授業理解や取り組む姿勢に影響したものと考えられる。また、質問6および7では、教員は授業内で触れたつもりが、受講生へはきちんと伝わっていないことを示している。

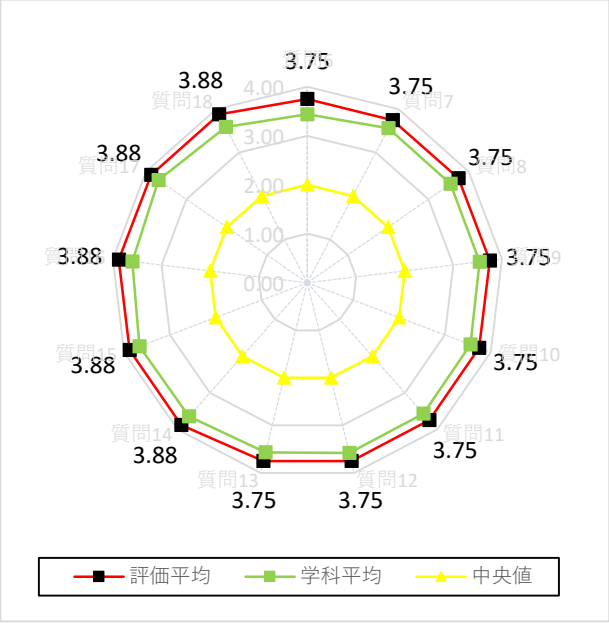
（３）次年度に向けての取り組み

当該授業では教科書を指定していないが、質問11の結果から、資料等の教材の活用が不十分であったことが分かる。当該授業ではヒトの身体やその能力を扱うことから、イラストやグラフなどを教材内に多用している。この多用が悪いのではなく、受講生の学びに結びつかない活用の仕方であったことが低評価の原因であると考える。授業では毎回課題を実施していることから、この結果をモニタリングすることで、受講生の理解が不十分な箇所の資料を改善した上で再掲するなどの手間をかけたい。また、質問6および7の結果から、授業計画や到達目標が受講生へ伝わっていないことがわかる。授業内容だけでなく、こうした点においても念を押すことで理解を促したい。これらの取り組みによって、学生が授業に取り組む姿勢を改善し、結果質問1～5の評価がよりよくなることを目指したい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅳ（認知症）	10名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

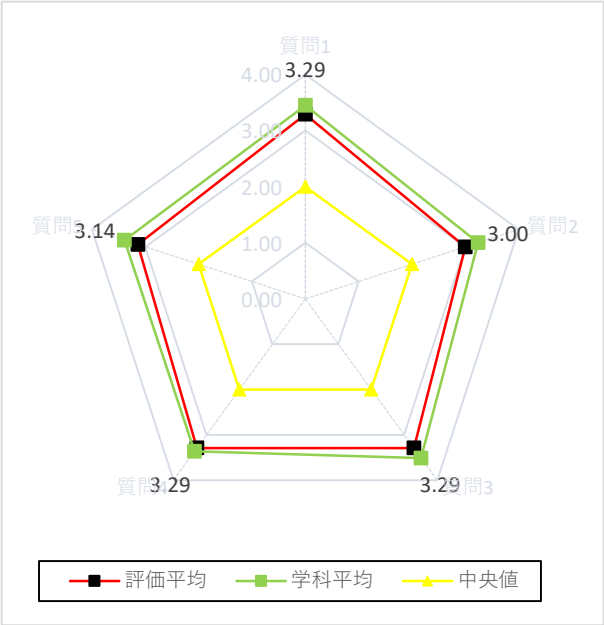
介護福祉士受験資格を希望する3年生が受講する実技演習の科目である。
学科平均より低い項目は質問４であった。「授業を理解するために自分で何か工夫」については若干低い結果となった。
授業の終わりに、本日の内容と関連のあるトピックやさらに深めるための教材の紹介などを取り入れて、知識探求心を高めていく必要性が指摘できる。

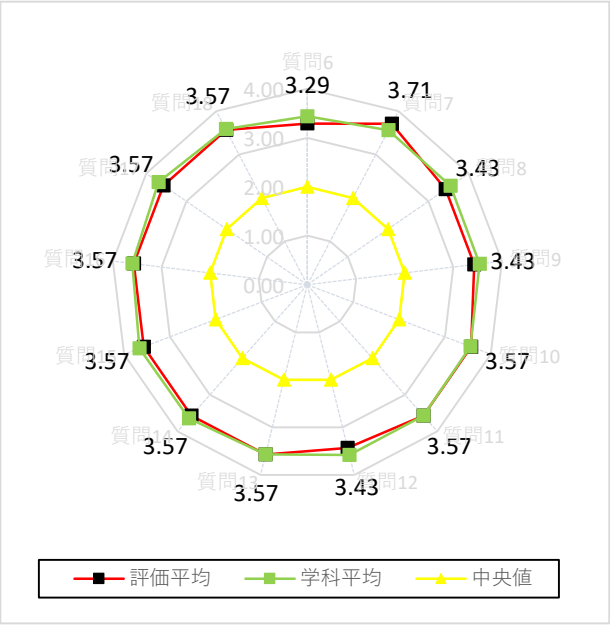
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の工夫点は、課題が多いという不満、課題に取り組むことの困難・不安を減らすために、課題レポートを減らし、代わりに授業時間を使って教員がサポートしながら同様の内容（図書館で資料を探して、まとめるなど）に取り組むことであった。そのため、これを継続しながら、探究心を高めるためのワードや資料の紹介をさらに取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		測定評価	49名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

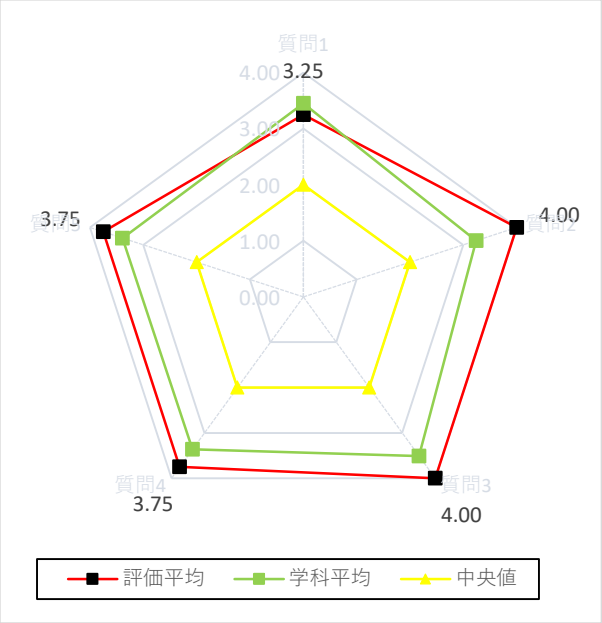
履修者49名の内7名からの回答を得た。最終授業でも授業評価アンケートに取り組むよう指導したが、回答者が少なく残念である。今回の授業評価では、すべての質問に対して3.0以上の評価であった。この結果からは、概ね良好と判断する。授業内容も体力測定等の演習授業も取り入れ、少しでも学生が興味や関心を持ってもらえるよう取り組んだことが、反映されているものと察する。結果、質問18の総合評価も3.57と高く評価を得て、安心した。今後も少しでも学生が満足できる授業が展開できるよう、改善していきたいと考えている。

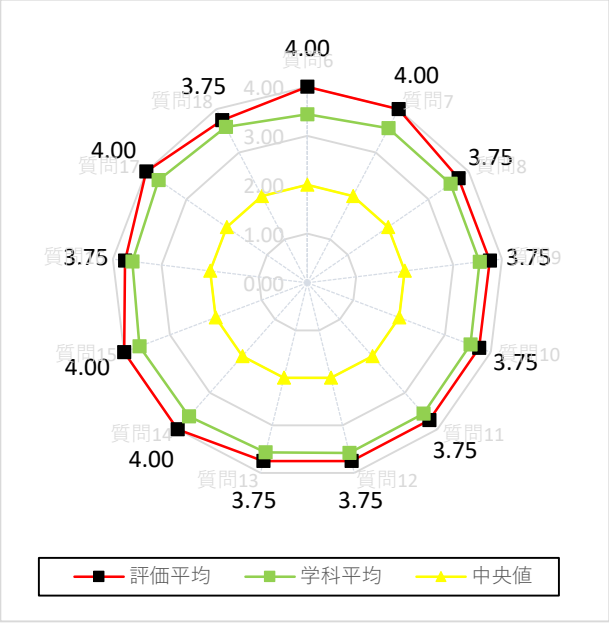
（３）次年度に向けての取り組み

今回もコロナ禍の状況でいつオンライン授業に移行しなければならない事態に陥る心配もあり、測定等の演習授業を早期にしかも短期間で実施した。そのため、学生にとっては十分な授業内容の理解が得られない状況が生じたかもしれない。次年度は、学生の授業の取り組み状況を踏まえて授業内容や進め方を工夫、改善していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康産業施設等現場実習	9名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

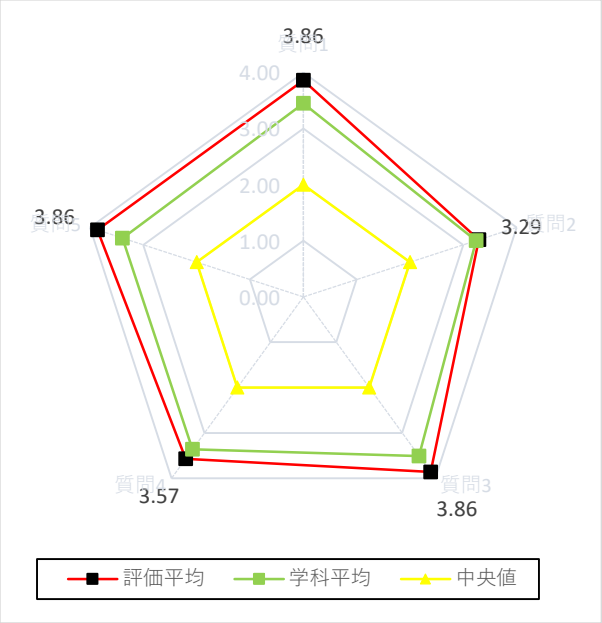
この授業の最終履修者は6名で、その内の4名からの回答結果である。すべての質問に対して3.0以上の評価結果で、7項目の質問に対しては4.0の結果であったことから、この授業の評価としては概ね良好と判断する。学外施設実習ではあるが、施設の指導担当者に将来に繋がるような多くの体験と知識の学びが得られるよう依頼していることや大学での事前指導や実習準備等の対応等が評価に反映されていると察する。そして、これまで実習施設数が限られていたため、今年度は1カ所の受け入れ施設との委託契約をして実習施設を増やした。そのことで学生も実習施設の選択肢が増えて、より充実した実践の場の経験が得られるようになったことと思う。

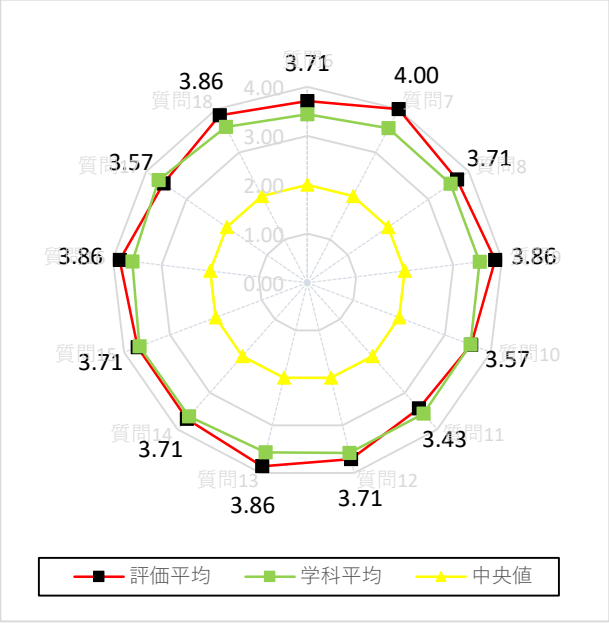
（３）次年度に向けての取り組み

次年度もできるだけ早期の実習受け入れの準備を進めたい。そして実習施設の指導担当者と蜜な連携を取り、より充実した実習が展開できるよう取り組みたい。
また、この授業が健康運動指導士資格の取得に繋がるよう願っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		基礎生活支援技術Ⅱ	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

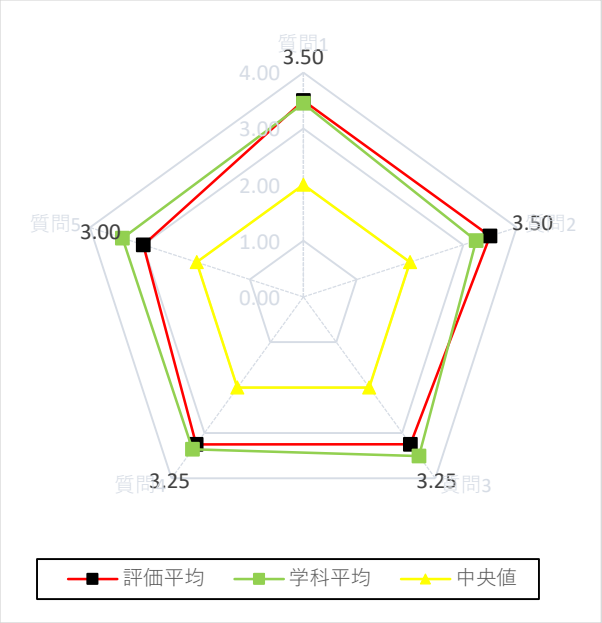
この科目は実技を中心とした科目である。
学科の平均より率い項目は、質問10、11、17であった。内容は教材の活用、教員の熱心さであった。
今年度工夫した内容は、実技評価の内容および、他科目との連動を意図した演習展開であった。
視聴覚機器については教室の機器の不調のため、スクリーンに映写できず、PCの周辺に集まってもらって解説したこともあったり、学生にとって不便なことがあった。また授業内容ごとにスライドを作成して配布したが、学生の満足度にはつながらなかったといえる。
「熱心さ」は、実技演習という学生に近い関係で教授する特性を活かして、学生とコミュニケーションを密に取りながら進める必要があると考える。

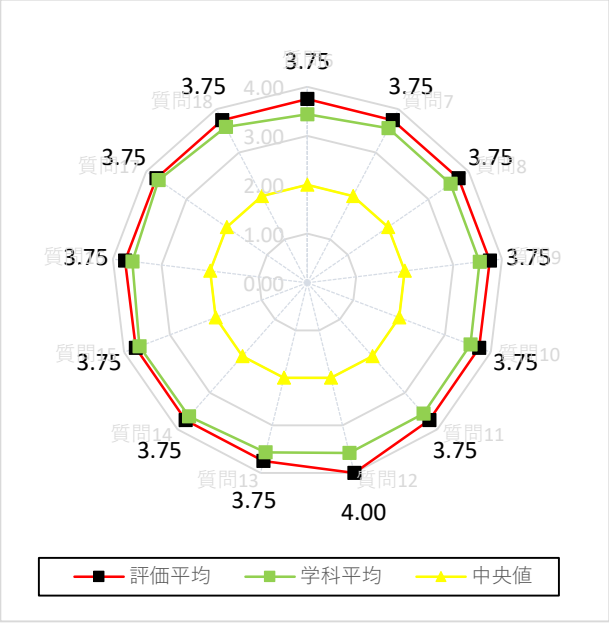
（３）次年度に向けての取り組み

2023年度は
①教室の機材の改善を通して、視聴覚教材の活用をスムーズに行う
②配布資料の満足度を高めるために、内容を精査する
③学生とのコミュニケーションを活発に行い、満足度を高める。
以上の内容で取り組んでいきたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程演習Ⅲ	13名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

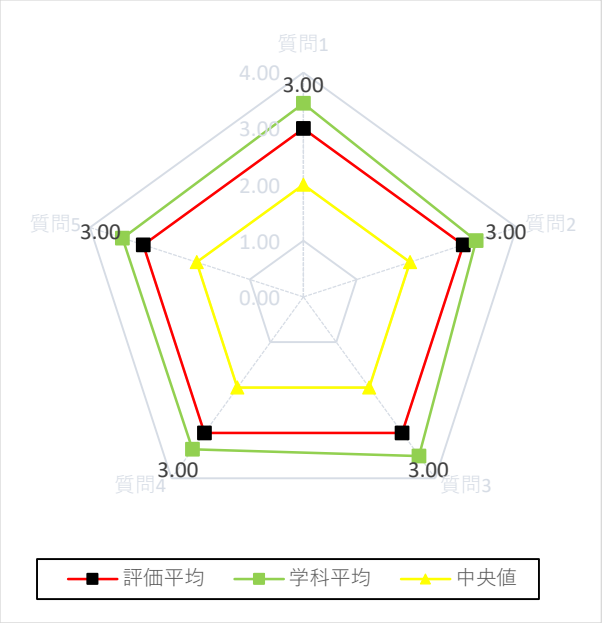
介護福祉士受験資格取得希望者の4年生が受講する演習科目である。
まず13名中、4名の回答と、回答者の少なさに課題がある。
学科平均より低い項目は質問3, 4, 5であった。いずれも学生の参加度に関する内容であり、学生の主体性を高める工夫に課題があることが指摘できる。この授業は演習科目であり、また実習での取り組みをまとめることが主な課題であるため、学生の取り組みなしには進まない科目である。そのような意味においては単位習得者はすべて課題をクリアしたことにはなるが、向き合い方について主体性を高める工夫がさらに必要であると考える。

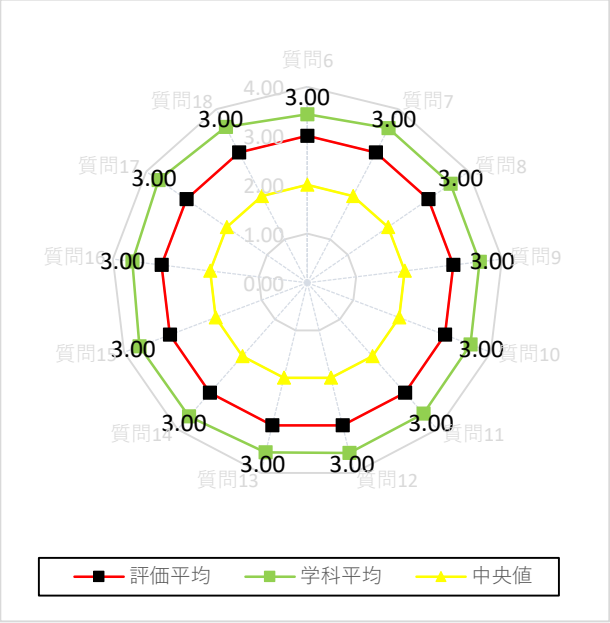
（３）次年度に向けての取り組み

科目の内容は、実習で担当した利用者（要介護高齢者）の個別支援計画の実施、評価の結果をまとめる内容である。自分の知識および支援について責任を痛感する科目であり、主体性をもって学ぶにはこれ以上の科目はない、という特性がある。にも拘らず、学科平均より低い結果となった背景には「自信を持つ」ことができなかった可能性がある。
支援の結果を振り返る過程で、実現できたことにも着目し、学生をエンパワメントしていく工夫に取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習Ⅰ	3名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

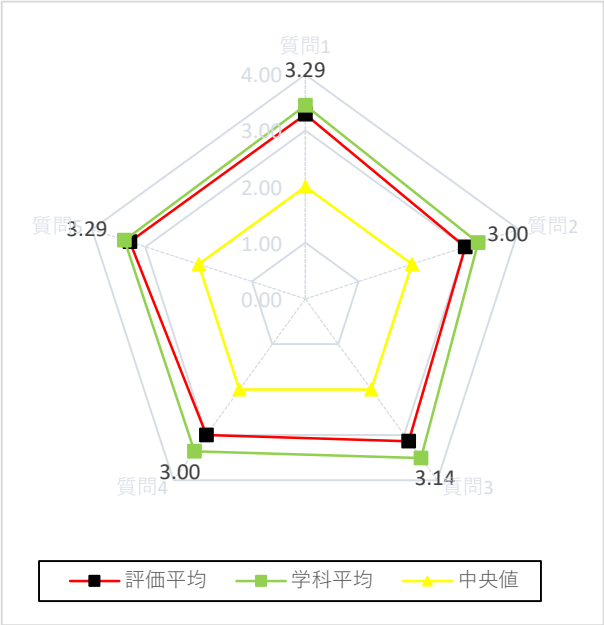
履修者3名の内の1名からの回答で詳細な結果分析には至らないが、健康運動実践指導者資格受験の対策として役立つ授業内容を今後も検討し、改善していきたい。そのためにも資格試験の情報収集も常に準備し、より一層学生が自ら積極的に受験対策に取り組めるよう支援していきたいと考える。

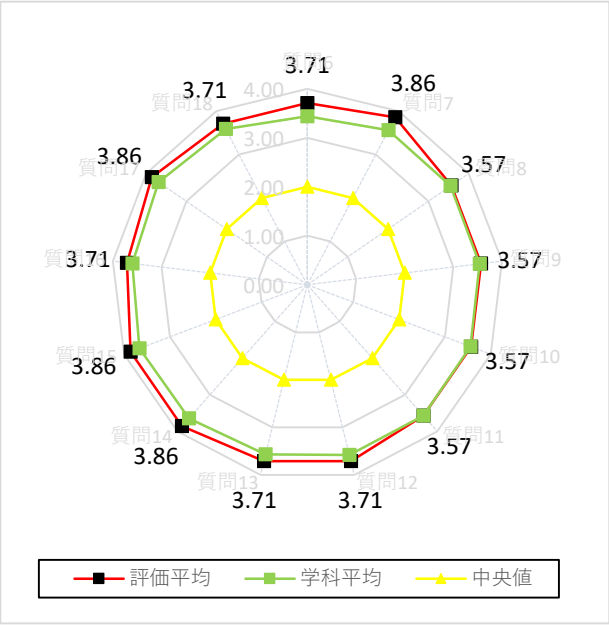
（３）次年度に向けての取り組み

実技試験対策については、資格試験の実技もこれまでほとんどが合格しているため、再度評価基準等を確認にながらこれまで通りの指導方法で進めたい。筆記試験対策では、効率よく受験対策の勉強ができるよう、さらに授業内容の改善や環境整備に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習Ⅱ	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

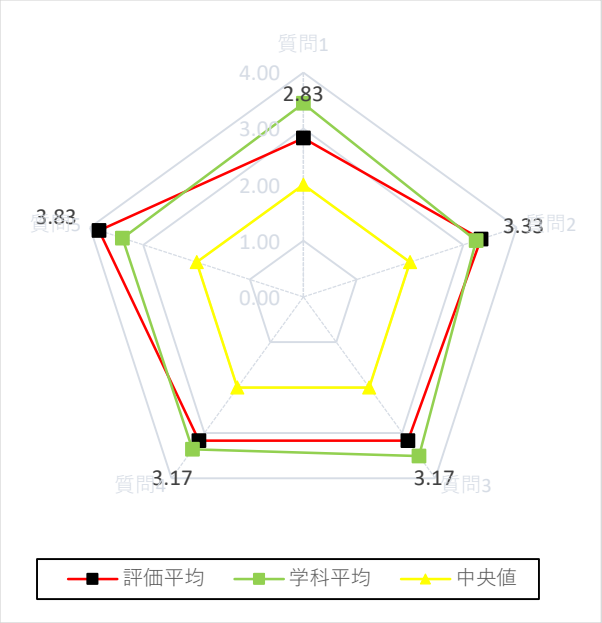
履修者全員からの回答を得ての結果である。すべての質問項目の評価平均は3.0以上であるものの、質問1から質問4の学生自身の質問に対して各自の評価が分散している。学生自身の総合自己評価（質問5）の評価平均は3.29で、授業全体の総合評価（質問18）の評価平均も3.71であったことから、概ね良好と考える。しかし、例年受験対策講座としての授業内容や指導方法については、学生の理解度の状況を確認しながらの模索状態である。今後も学生自身が積極的に自己学習できるよう支援していきたい。

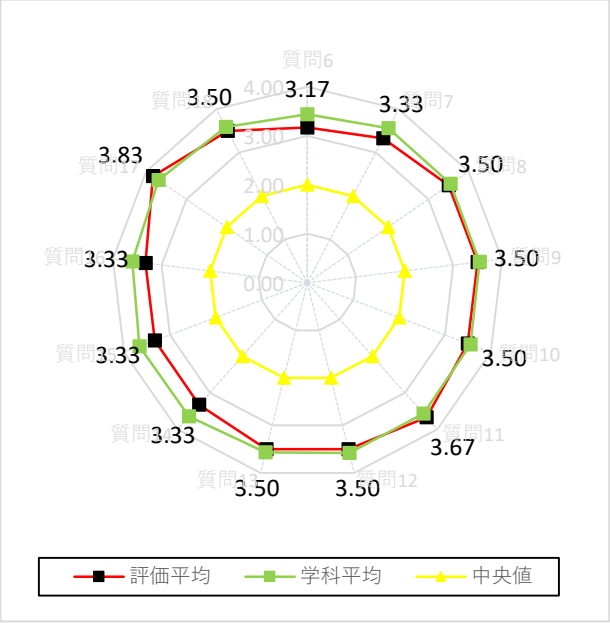
（３）次年度に向けての取り組み

次年度はテキストの有効活用について検討し、受験対策に結び付けたい。特に、市販されている練習問題集等を参考に、どのように多くの専門知識の理解を深めるかを学生とともに考えてみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

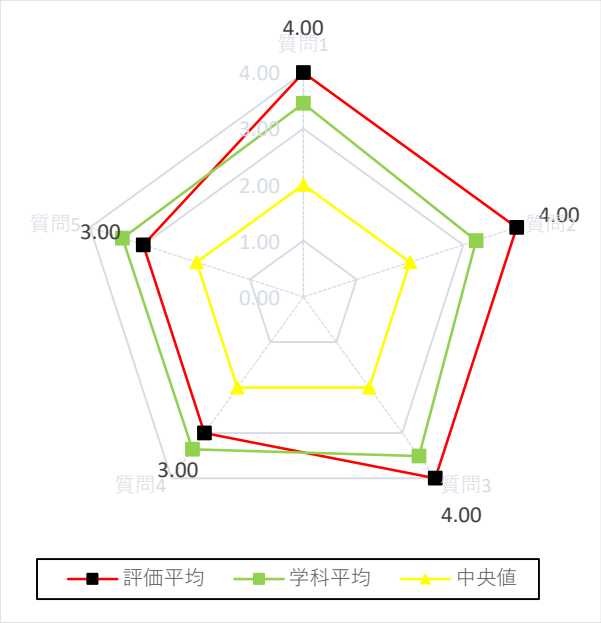
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目（選択科目）として、3年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生8名が履修した。
履修学生8名のうち6名から回答があり、一部の質問項目において学科平均を下回る評価となった。学生の意欲･態度に関する項目の質問5「自身の総合自己評価」は学科平均を大きく上回ったことから、学生自身の評価が高まるような学外活動が実践できていたことが伺える。

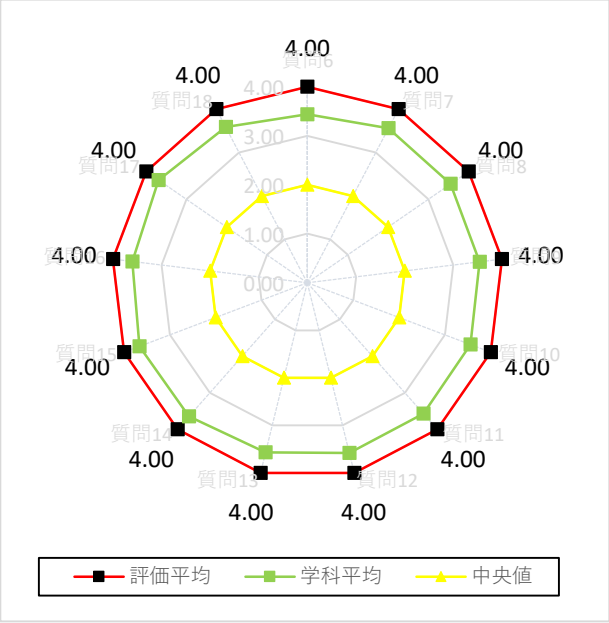
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の取り組みを継続していくとともに、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅰ	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

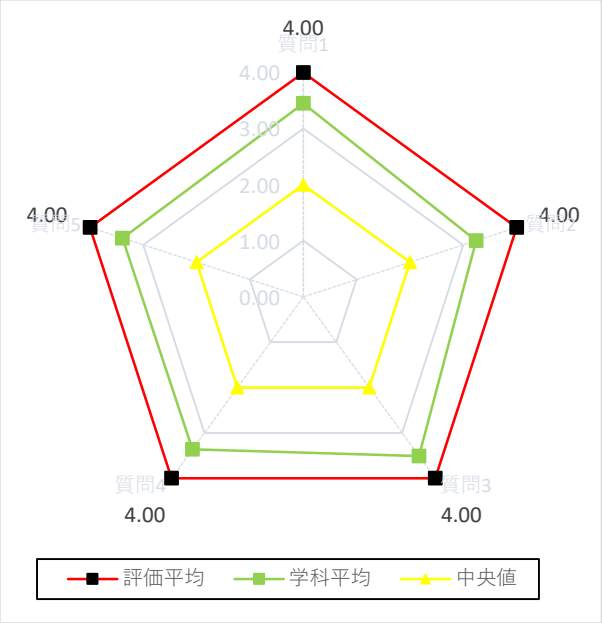
この「地域スポーツ実践演習Ⅰ」は専門教育科目の選択科目である。本学科で取得できる資格要件ではないものの、原則全学生が履修するよう指導している。授業ではオムニバス形式の講義と地域住民を対象とした運動・スポーツの指導や支援を含んだ少人数による演習で構成されている。今年度、初めて当該科目を担当したが、それぞれの活動によって異なる状況に対応しきれず、学生への指導も十分とは言えずいろいろと反省点は多い。にもかかわらず授業評価結果はの多くに4.0と最高点が付いている。今年度、当該科目担当者はこの科目を授業評価アンケートの対象科目に含めなかったため、履修者7名中ごく少数の受講生が回答したことによるものと考えられる。一方で、学生自身の授業に対する評価のうち、質問4と質問5がいずれも3.0と比較的低評価であった。受講生が授業による成果に十分満足しているとは言えないことに留意したい。

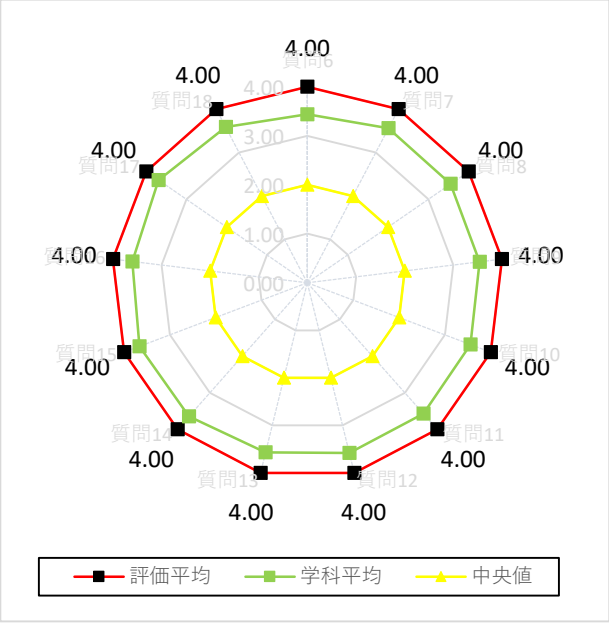
（３）次年度に向けての取り組み

上述した経緯から、今回の評価結果とは別に自身の授業内容について再度振り返り、受講生が授業の成果を実感できるよう、受講生の活動への介入頻度や内容を改善したい。その上で、次年度の授業評価で改めて改善点を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

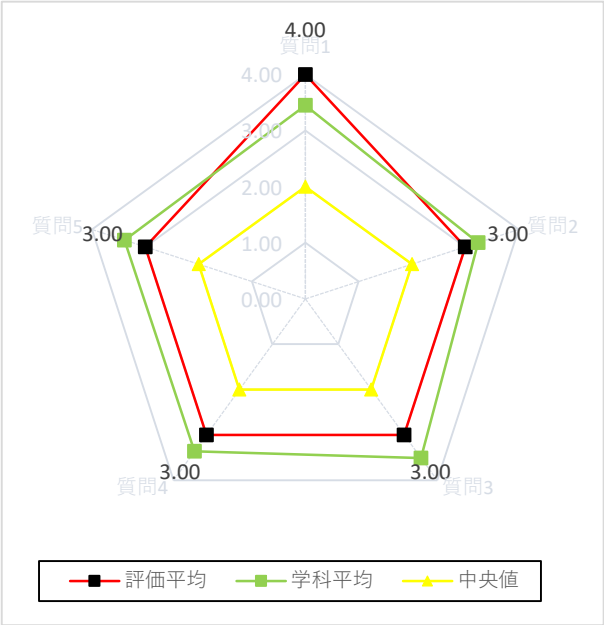
この「地域スポーツ実践演習II」は専門教育科目の選択科目である。本学科で取得できる資格要件ではないものの、原則全学生が履修するよう指導しており、地域住民を対象とした運動・スポーツの指導や支援を含んだ少人数による演習を行っている。今年度、初めて当該科目を担当したが、それぞれの活動によって状況が異なったこともあり、学生への指導も十分とは言えずいろいろと反省点は多い。にもかかわらず授業評価結果はいずれの項目も4.0と最高点が付いている。今年度、当該科目担当者はこの科目を授業評価アンケートの対象科目に含めなかったため、履修者8名中ごく少数の受講生が回答したものと考えられる。

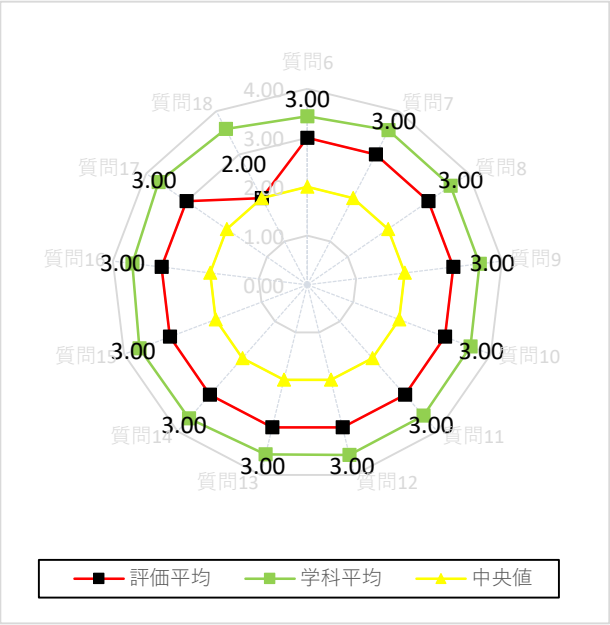
（３）次年度に向けての取り組み

上述した経緯から、今回の評価結果とは別に自身の授業内容について改めて振り返り、受講生の取り組みへの介入の頻度や内容を改めたいと考えている。その上で、次年度の授業評価で改めて改善点を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

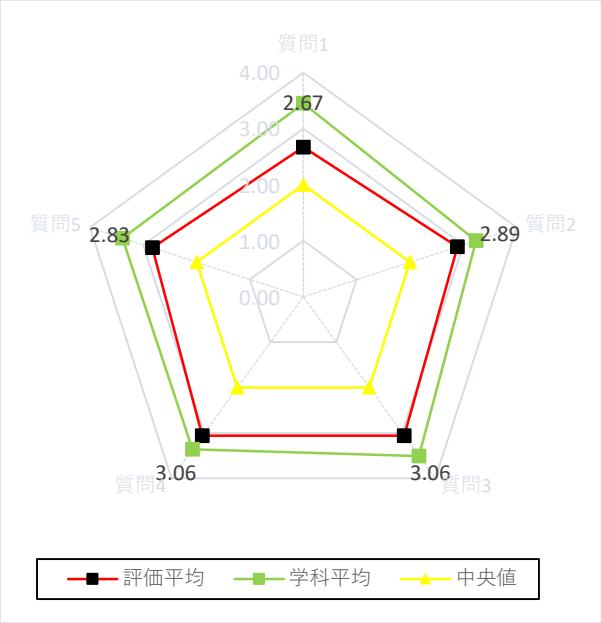
アンケートの回答は履修者8名中1名からである。そのため詳細な分析はできないものの、この学生の授業に対しての総合評価（質問18）が2.0であることから今後改善が必要であると考える。この学生からの自由記述のコメントがないために具体的な内容が不明であることから、可能なら再度この学生へ意見を聞き対策を講じようと考えている。

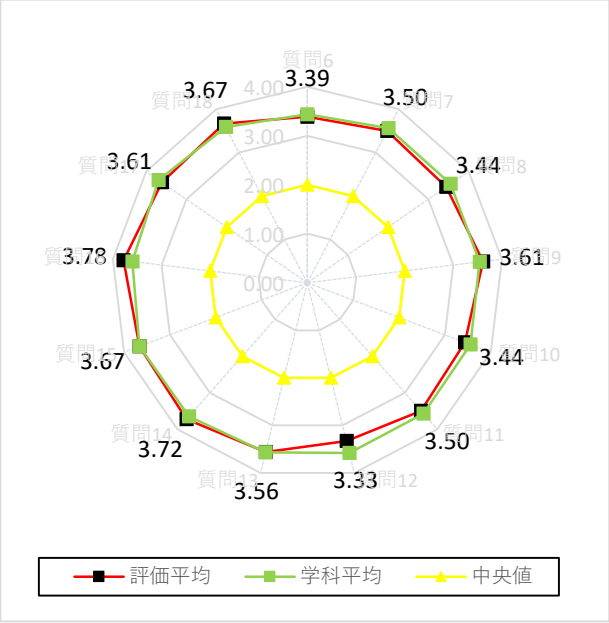
（３）次年度に向けての取り組み

この授業はゼミ単位の活動であるものの、学科全体での取り組みでもある。そのために、常に活動状況の情報等を学科内で共有している。今年度の結果をもとに学科で改善できることとゼミ内で改善できることを整理、検討して、次年度も学生の実践力の学びができるよう学生とともに取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		リハビリテーション論	33名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

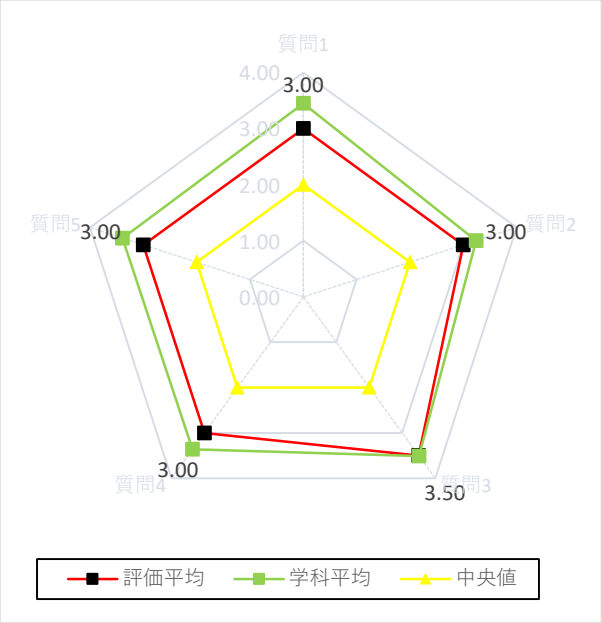
回答率：56.2%（18名/32名）.
学習者の総合自己評価（質問5）：良好 16.7%（3名/18名），概ね良好 55.6%（10名/18名），やや不良 22.2%（4名/18名），不良 5.6%（1名/18名）.
講義の総合評価（質問18）：良好 66.7%（12名/18名），概ね良好 33.3%（6名/18名），やや不良 0%（0名/18名），不良 0%（0名/18名）.
自由記述：「内容に関しては，興味のある内容で分かりやすいようなまとめ方をされていた．グループワーク的な学生同士で話し合える時間があると更に主体的に講義に参加できると感じました（1名）」「話が面白くて授業が楽しかったです（1名）」「ありがとうございました（1名）」.

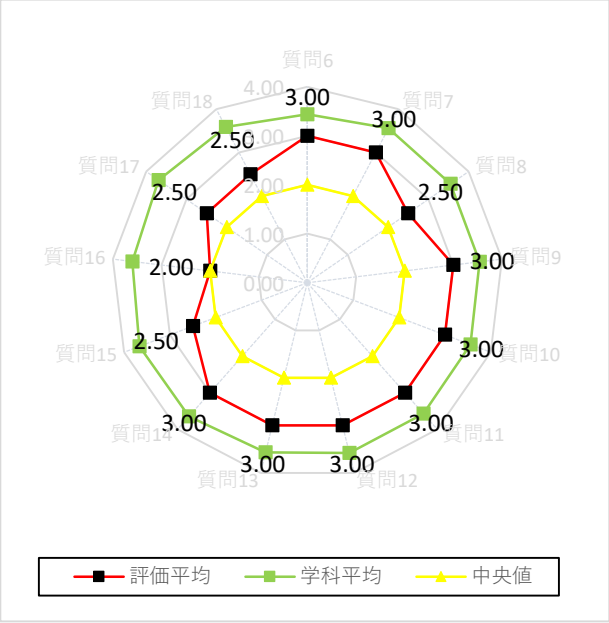
（３）次年度に向けての取り組み

回答率は56.2%で課題が残った.
期末試験実施前に，受講者全員に対して「授業評価アンケート」への回答時間を設けて試験を開始したが回答率は56.2%と低値を示した．定期試験前のスマホ操作の内容を確認することもできず，これに対する改善策は思いつかない.
学生の自己評価における「満足」「おおむね満足」は73.3%，講義に関する「満足」「おおむね満足」は100%で比較的好評価を得ている.
他学科（多学科）の受講生を対象とした講義のため，講義内容に沿った画像および動画を含めた講義を行って講義内容の理解を促し，各講義終了時に「ミニッツペーパー」の提出を課して，講義の理解度を確認するとともに出欠を管理している.
提出された「ミニッツペーパー」の記述（質問および不明箇所）については，双方向講義を意識して次回講義で必要に応じて解説の時間を設けている.
一部に「グループワーク的」な時間の設定を望む声があるが，多学科の学生が受講生であるため，テーマに沿った学生の発言時間の設置も必要かと考えている.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		キャリアデザイン基礎演習	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

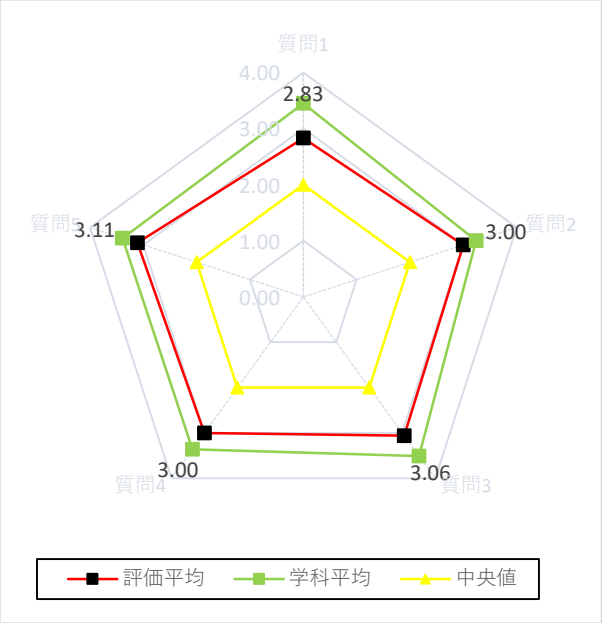
授業評価対象外の科目としていたため、２名が回答した内容のため、全体の分析・評価はできない。

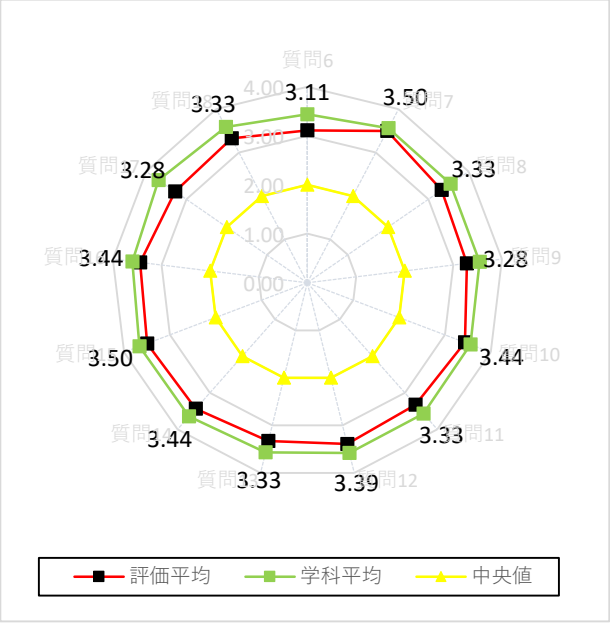
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、対象となる内容記載はない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅳ	18名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

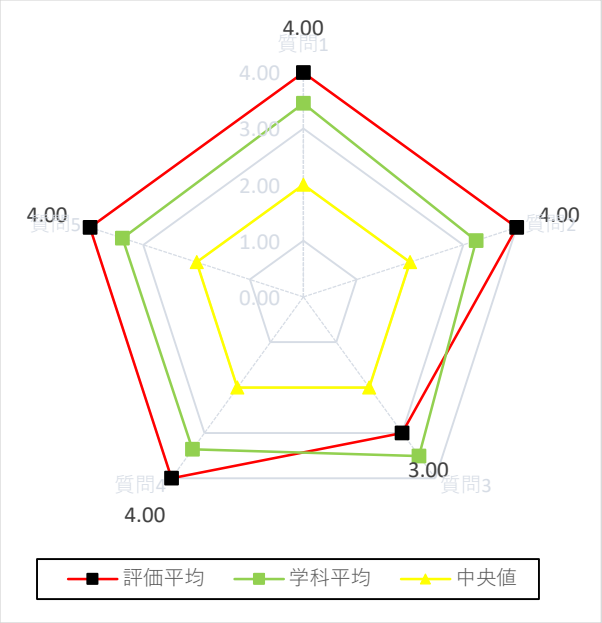
この講義は、前期の対象科目で授業中に実施したため全員が評価を行った。
自己評価については、質問１，３，４が平均を下回っていた。一般的に保健体育の分野で保健に対する学習意欲や興味関心が低い傾向にあり、そのあらわれともいえる。一方、授業評価においては質問６，９，１７が評価が低かった。シラバスについては初回に説明しており評価が低い理由が分析できなかった。質問9についても小学生の教材も活用するなど楽しい保健学習の基本的な内容を取り扱ったが、保健の授業づくりや教材研究自体に興味関心を持てなかった学生へのフィードバックが必要と感じた。この授業は講義形式8コマと演習形式（模擬授業）7コマを後半に実施している。2回目の講義で各自担当する領域を決め、模擬授業まで準備期間は十分にあったと考えるが、学生間で模擬授業の評価、ディスカッションを中心に進めたことで、それらを負担に感じた学生が質問１７を低く評価したのかもしれない。

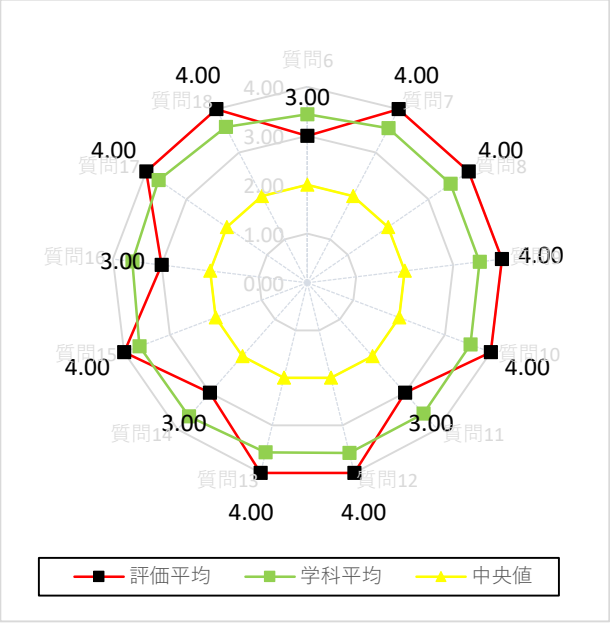
（３）次年度に向けての取り組み

興味関心をもって取り組む学生と、その逆の学生がいたことから、共通した課題で模擬授業を担当させるのではなく、グループでの授業づくりや教材研究に取り組む場面と個々の状況に合わせた課題による調べ学習を取り入れ、全員が保健学習に興味を持てるように計画する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教育実習基礎演習	16名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

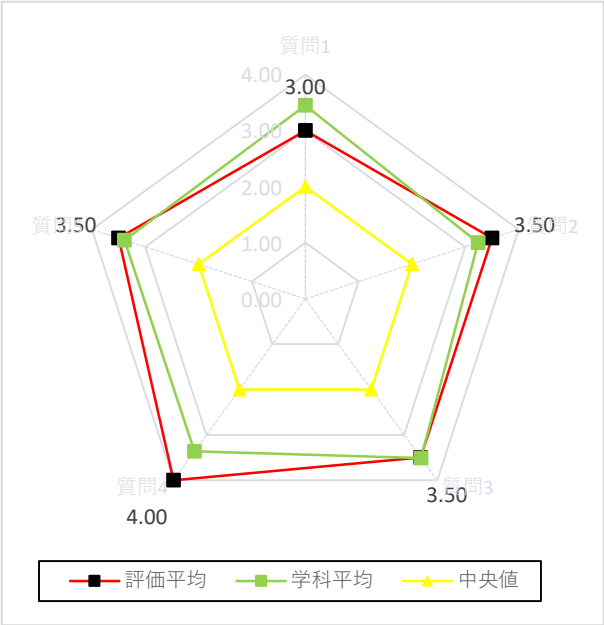
授業評価対象外の科目としていたため、1名が回答した内容のため、分析・評価ができない。

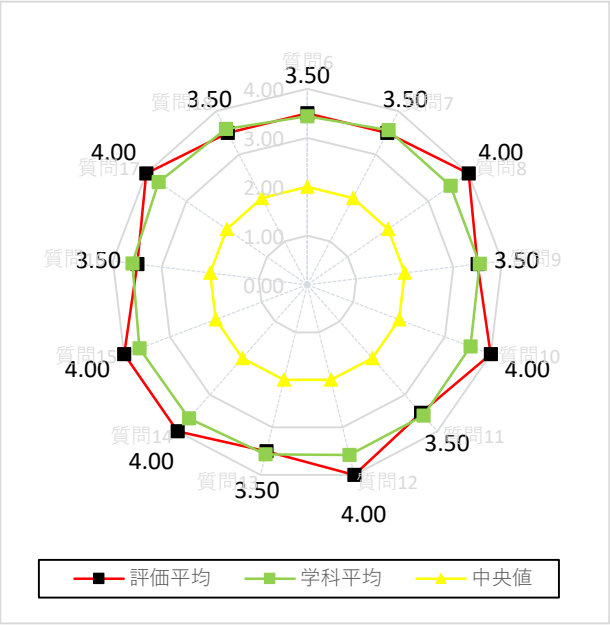
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、対象となる内容記載はない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教育実習事前事後指導	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

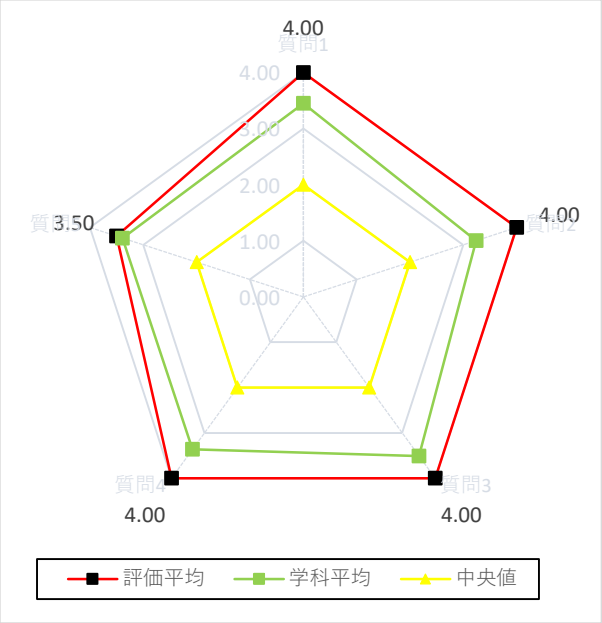
授業評価対象外の科目としていたため、２名が回答した内容のため、全体の分析・評価はできない。

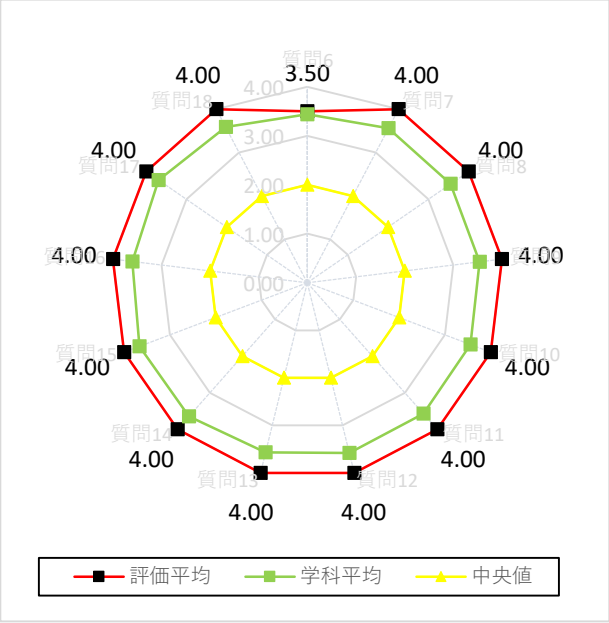
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、対象となる内容記載はない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教育実習	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

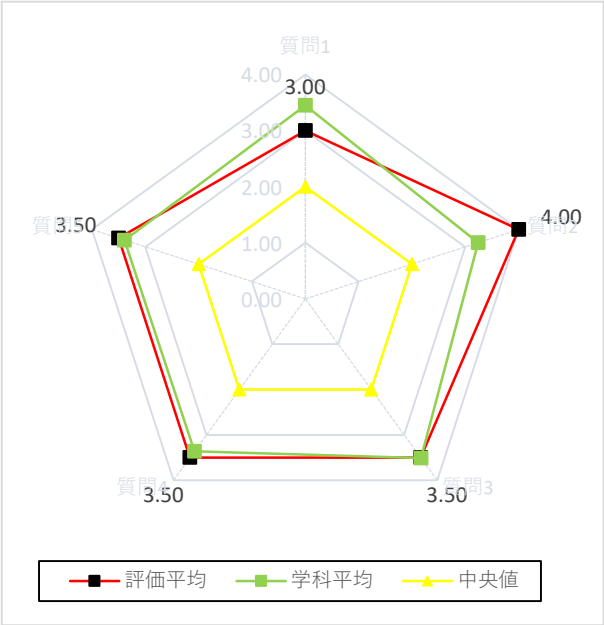
授業評価対象外の科目としていたため、２名が回答した内容のため、全体の分析・評価はできない。

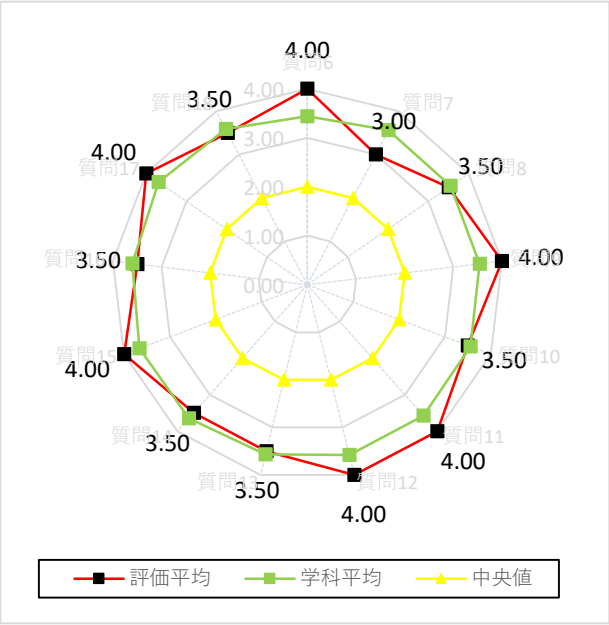
（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、対象となる内容記載はない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教職実践演習（中・高）	22名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

授業評価対象外の科目としていたため、２名が回答した内容のため、全体の分析・評価はできない。

（３）次年度に向けての取り組み

授業評価対象外の科目としていたため、対象となる内容記載はない。